平成28年度

# 徳島県幼児教育推進体制構築事業
# 報　告　書

# 目 次

## ■ 幼児教育の質向上に係る推進体制等の構築モデル調査研究


はじめに …… 1

調査研究の目的 …… 2

調査研究の方法 …… 2

調査研究の体制 …… 5

調査研究の計画 …… 7

調査研究の内容 …… 9

成果と課題 …… 28


## ■ 推進事業の資料


資料１　徳島県における幼児教育の状況 …… 33

資料２　徳島県教育委員会幼児教育研修一覧 …… 34

資料３　「徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ」の進捗状況 … 35

資料４　訪問記録 …… 39

資料5　訪問指導の記録の分析と考察 …… 46

資料6　幼小連携，保小連携実践リーフレット …… 61

# ■　幼児教育の質向上に係る推進体制等の構築モデル調査研究

## はじめに　徳島県保育・幼児教育センターの設置

徳島県では，「全ての幼児に提供される質の高い幼児教育」を目指す「徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ」を平成２７年度に策定し，取組を進めている。大きな課題となっているのは，幼児教育推進体制の構築と保育者の研修機会の確保である。

公私幼保の全ての施設において幼児教育を充実させるためには，首長部局・教育委員会の連携，県から設置者や各施設への指導・支援，設置者から各施設への指導・支援，各施設間の連携，指導者と予算の確保等，幼児教育の推進体制の構築が不可欠である。しかし，本県では，事務局の人員・体制が十分でなく，推進体制の構築にまで至らない現状がある。本調査研究により，「幼児教育センター」を中核とした幼児教育推進体制を整備し，「徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ」をより実効性のあるものとして長期的に推進していくことのできる基盤を築きたい。その際，大学等と連携し，「幼児教育センター」の在り方や実施施策・内容について専門的意見を得ながら進めることにより，同じように脆弱な体制で幼児教育充実に向けて取り組んでいる他県に普及できる調査研究としていく。

保育者の資質向上については，勤務形態の変化や多忙化により，研修への参加と園内研修の実施が難しい。また，保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園それぞれの課題意識が異なり，一斉に行う園外研修では，教育・保育現場のニーズに対応しきれない。このような状況を踏まえ，施設訪問による指導の必要性と有効性に着目した。現在，公立幼稚園等に対して行っている訪問指導を公私幼保を問わず全ての施設に対して行うことで，保育者の実践的な研修の機会とし，保育者の資質向上及び各施設の教育・保育の質向上につなげたい。

また，保育者の資質向上に向け，指導者不足が大きな課題であるが，「保育・幼児教育アドバイザー」を養成・配置することにより，充実した訪問指導を多く実施することが可能になる。また，アドバイザーと共に各施設の教育・保育の実態を把握した上で，行く行くは保育者のための具体的な指導資料を作成する。指導資料を活用することにより，アドバイザーによる指導内容の共有化，保育者の実践力の向上を図り，幼児教育全体の底上げにつなげたい。

本調査研究により構築される幼児教育推進体制，訪問指導の充実，保幼小連携・接続の普及，大学等との強固な連携は，現在の幼児教育の充実だけではなく，将来の徳島における幼児教育充実のための確かな基盤となり，全ての幼児の健やかな成長を支えていくものとなる。

## 調査研究の目的

「全ての幼児に提供される質の高い幼児教育」の実現のために，「徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ(H27.3策定)」の具現化をめざすにあたり，幼児教育推進体制の構築と保育者の研修機会の確保が課題である。そこで，「保育・幼児教育センター」を設立し，それを中核として，首長部局・教育委員会，大学，各施設と連携した推進体制を構築する。また，公立幼稚園等に対して行っている訪問指導の対象を公私幼保等に広げ，実践的な研修の機会の場による保育者の資質向上と各施設の教育・保育の質向上を図る。

また，調査研究課題は次のとおりとした。

○「保育・幼児教育センター」を中核とした幼児教育推進体制の構築
○「幼児教育アドバイザー」の養成・派遣による訪問指導の充実
○保幼小連携推進モデル事業による就学前教育と小学校教育の接続の推進
○大学・附属幼稚園等と連携した研修の充実と指導資料の作成

## 調査研究の方法

### 1．「保育・幼児教育センター」を中核とした幼児教育推進体制の構築

#### (1)「保育・幼児教育センター」の設置と機能の充実

「保育・幼児教育センター」として，主に次の５つの事業を実施する。

① 「保育・幼児教育アドバイザー」を養成・配置することにより，幼稚園・保育所・認定こども園への訪問指導を充実させ，保育者の資質向上と園の教育力向上を図る。

② 保育所・認定こども園・幼稚園の保育者を対象とした幼児教育研修の充実させることにより，保育者のライフステージやニーズに応じた研修を実施し，保育者の資質向上を図る。保育士対象の研修，幼稚園教諭対象の研修の交流を拡大する。また，教員育成指標の作成と研修モデル計画の作成に取り組む。

③ 保幼小連携推進モデル事業を実施・普及させることにより，保育所と幼稚園・小学校との連携，就学前教育と小学校教育の接続の取組を推進する。

④ 保育者のための具体的な指導資料の作成し，配付・活用することにより，保育者としての基本となる事項を身に付けられるようにし，各保育者・各施設における教育・保育の質の底上げを図る。

⑤　市町村や設置者に対する指導・支援の機会を設定することにより，各市町村・各施設における取組の充実を図る。

**(2) 関係部局間の連携**

①　幼児教育推進連絡協議会事務局会を設置し，定期的に協議することにより，幼児教育充実に向けた取組を，部局を越えて展開できるようにする。

②　公立・私立の保育所・幼稚園・認定こども園の実態を把握し，各部局が実施する施策の統合や共有を検討することにより，実施施策の効率化と充実を図る。

**(3) 大学，研究機関等との連携**

①　教員養成大学及び附属幼稚園教員を「保育・幼児教育スーパーバイザー」として委嘱し「保育・幼児教育センター」の在り方や実施施策に対する助言・協力を得ることにより，施策の充実と幼児教育の拠点としての在り方をより有益なものにする。

②　研究団体に指導資料作成委員の委嘱し，具体的な資料作成に協力を得ることにより，具体的な資料の作成と効果的な活用を進める。

## ２.「保育・幼児教育アドバイザー」の養成・派遣による訪問指導の充実

**(1)「保育・幼児教育アドバイザー」の配置**

①　幼児教育・保育の専門的知見や豊富な実践経験を有する人材を「保育・幼児教育アドバイザー」として委嘱し，県に配置する。

②　東西南北の４管区ごとに担当者（教育担当及び保育担当）を置き，各管区の施設に派遣し，教育・保育内容や指導方法，指導環境の改善について助言・指導を行う。

**(2)「保育・幼児教育アドバイザー」の養成・資質向上**

①「保育・幼児教育アドバイザー研修」を実施することにより，アドバイザーとして必要とされる資質を身に付けさせる。その際，養成大学等との連携により，研修内容等について助言を得るとともに，研修の実施を依頼する。

②　現在行っている施設訪問（幼稚園等への訪問指導・保育所等への監査）に同行し，各施設における保育者の資質や，資質向上に関するニーズを把握する。

③　施設訪問により把握した実態と研修をもとに，施設訪問における指導内容を協議する場を設け，指導内容の共有と充実を図る。

**(3)「保育・幼児教育アドバイザー」による訪問・指導**

①　現在行っている施設訪問（幼稚園等への訪問指導・保育所等への監査）に同行し，担当者と共に，指導・助言にあたる。

②　訪問園を順次拡大するとともに，各施設に対する訪問指導体制を統合し，３年間を通して，全ての施設に対して，教育・保育内容に関する訪問指導ができるようにする。

③　アドバイザー連絡会を実施し，各施設の実態把握と情報の共有，指導内容・方法等の協議を重ねる。この協議を指導資料作成に生かし，指導内容の共有と充実を図る。

## ３．保幼小連携推進モデル事業による就学前教育と小学校教育の接続の推進

### (1) 保幼小連携推進モデル事業の実施

① 国研研究指定校事業（「幼小接続」H24･H25）の取組を基盤にし，新たに保育所を対象とした連携・接続の研究に取り組む。

② 指定地域において，保育所と小学校の連携・接続の取組，行政主導による就学前教育と小学校教育の接続の取組を進める。

③ 推進協議会を設置し，大学教員等による指導・助言を得ながら進める。

### (2) 研究内容の普及等による県下全域での取組の推進

① 県内教職員500 名が参加する「あわ（OUR）教育発表会」において研究発表を行うとともに，ＨＰでも公開し，成果の普及を図る。

② 連携・接続のポイントやモデル事業の実践例を掲載した「保幼小連携実践集」を作成・配付し，他地域での取組を推進する。

## ４．大学・附属幼稚園・研究団体等との連携による取組の充実

### (1) 大学・附属幼稚園の「保育・幼児教育スーパーバイザー」としての関与

① 地域の幼児教育の拠点となる「保育・幼児教育センター」の在り方についての助言を得ることにより，「保育・幼児教育センター」としての機能を充実させる。

② 「保育・幼児教育アドバイザー」として必要とされる資質や研修内容についての指導・助言を得るとともに，研修講師を依頼することにより，「保育・幼児教育アドバイザー」の資質を高める。

③ 保育者のライフステージやニーズに応じた研修，保育士・保育教諭・幼稚園教諭に求められる資質・専門性を培う研修についての助言を得るとともに，研修講師を依頼することにより，充実した研修を実施する。

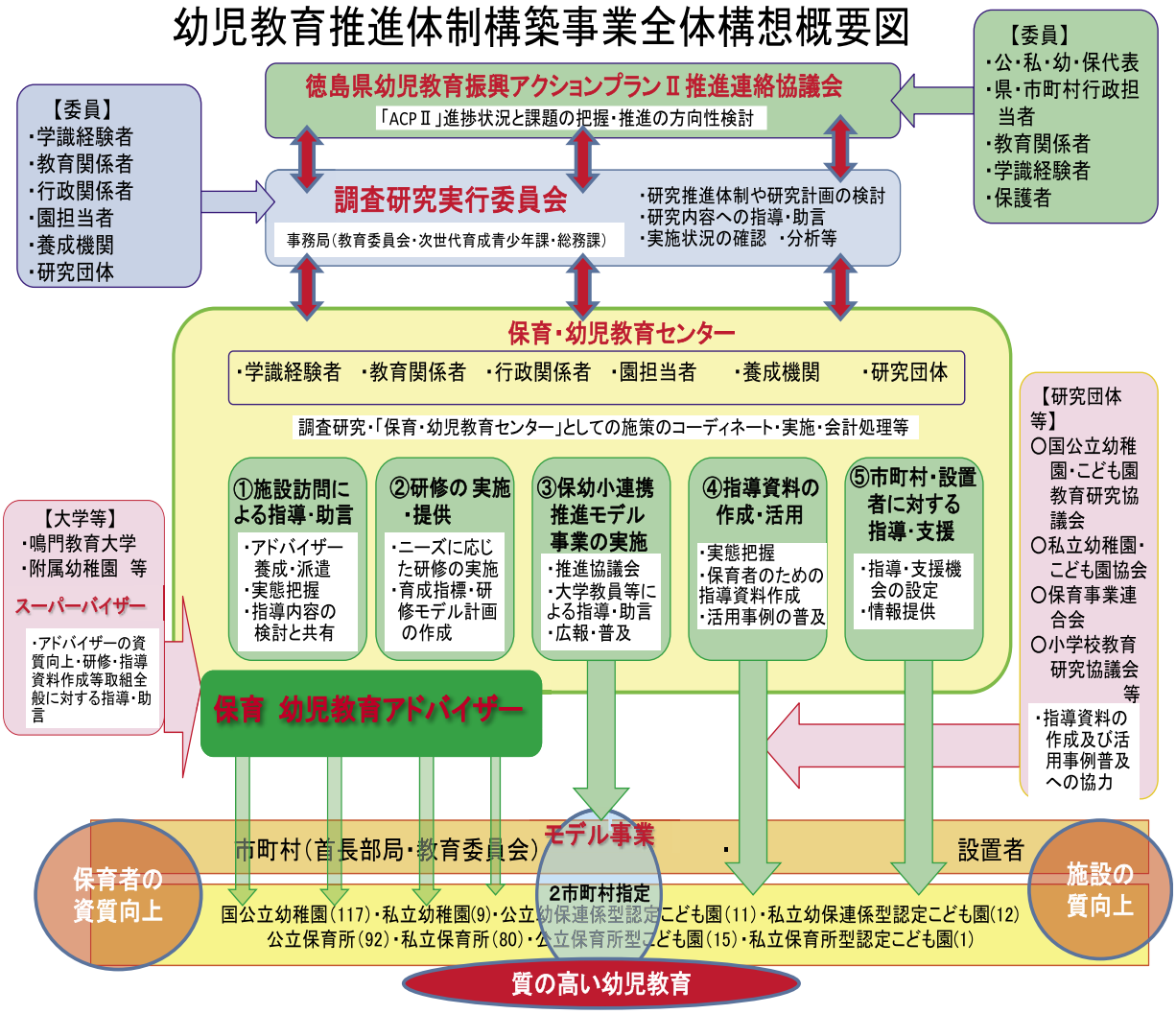
④ 指導資料の作成についての助言・指導を得ることにより，教育・保育実践に即した資料を作成する。

### (2) 研究団体との連携した取組の充実

① 県幼稚園教育研究協議会，保育事業連合会，私立幼稚園・認定こども園協会等から指導資料作成委員を委嘱し，指導資料作成に協力を得ることにより，実践事例を踏まえた具体的な指導資料を作成する。

② 研究団体における指導資料を用いた実践や研修事例を普及することにより，県下全域での活用を促進し，保育者の質の底上げを図る。

## 調査研究の体制




### 1．調査研究実行委員会

(1) 学識経験者・教育関係者・行政関係者・園担当者・養成機関・研究団体等で構成する。

(2) 年間２回開催し，研究推進体制や研究計画の検討，研究内容への指導・助言，実施状況の分析等を行う。

(3) 必要に応じて専門部会を実施することも検討する。

### 2．徳島県幼児教育推進連絡協議会（「徳島県幼児教育振興アクションプラン推進連絡協議会」）

(1) 学識経験者，県・市町村行政担当者，公私幼保各施設の代表者，保護者等で構成する。

(2) 年間２回開催し，それぞれの立場から幼児教育推進について協議し，県全体の幼児教育の振興を図ることを目的とする。

(3) 保育・幼児教育センターとしての機能の整理・課題と取組の方向性の検討を行う。

## ３．徳島県幼児教育推進連絡協議会事務局

(1) 県の関係各課実務担当者で構成する。

(2) 保育・保育・幼児教育センターの機能の整理・充実，諸施策の調整・実施，事務処理・会計処理等，調査研究に係る全ての事項について調整し進める。

(3) 徳島県幼児教育推進連絡協議会開催に関する年間４回の定期開催に加え，調査研究に係る事項について，随時協議・対応する。

※ 調査研究体制の特徴

(1) 県教育委員会のリーダーシップにより，取組を進める。

(2) 保育・保育・幼児教育センターを核にしたネットワークづくりを進める。

(3) 大学・附属幼稚園等と連携し，取組の質を向上させる。

(4) アドバイザーを県に配置し，養成や課題の検討，指導事項の共有化を図る。

(5) 研究団体の協力による指導資料作成と活用事例の広報による活用の促進を図る。

(6) 調査研究立ち上げに要する事務の増加に対応する補助員を配置する。

## 調査研究の計画

| | 具体的な取組 |
|---|---|
| 1年目 | **1．「保育・幼児教育センター」を中核とした幼児教育推進体制の構築に関して**<br>○　調査研究実行委員会を設置，開催し，事業推進に関する協議を行う。<br>・研究推進体制や研究計画の検討<br>・研究の実施状況の確認と研究内容<br>○　幼児教育推進連絡協議会において，調査研究の実施について協議する。<br>・「保育・幼児教育センター」の機能の整理・市町村等との連携等<br>○　事務局会において，研究計画の詳細について検討・協議する。<br>・訪問指導体制・研修計画・保幼小連携推進モデル事業・指導資料作成等<br>○　指導資料の内容検討を行う。<br>**2．「保育・幼児教育アドバイザー」の養成・派遣による訪問指導の充実に関して**<br>○　アドバイザーに必要な専門性を検討し，人選・委嘱を行う。<br>○　研修を実施（6 回）し，アドバイザーとしての指導力の向上を図る。<br>○　施設に訪問し（一人5 園程度），実態把握と訪問指導についての協議を行う。<br>**3．保幼小連携推進モデル事業による就学前教育と小学校教育の接続の推進に関して**<br>○　２地域を指定し，保幼小連携・接続の研究（第1 年次）に取り組む。<br>○　推進協議会の実施，大学教員及び指導主事による指導を行う。<br>○　指定地域において，第１年次の研究をまとめ研究発表を行う。<br>○「実践事例リーフレット」を作成・配付する。<br>**4．大学・附属幼稚園・研究団体等との連携による取組の充実に関して**<br>○　大学・附属幼稚園に「スーパーバイザー」としての関与を依頼する。<br>○「保育・幼児教育センター」「保育・幼児教育アドバイザー」の在り方について助言を得る。<br>○　講師を依頼し，「保育・幼児教育アドバイザー」研修を実施する。 |
| 2年目 | **1．「保育・幼児教育センター」を中核とした幼児教育推進体制の構築に関して**<br>○　幼児教育推進連絡協議会を実施し，取組の進捗状況と今後について協議する。<br>・訪問指導・保幼小連携推進モデル事業・研修の実施・指導資料の作成<br>○　モデル園（市町）を指定することにより，域内での取組実績をつくり，研究大会等をとおして，他の地域に徐々に波及させる。<br>○　数園を対象として，アドバイザーの訪問による効果や必要性を検証する。 |

| | |
|---|---|
| 2年目 | **2．「保育・幼児教育アドバイザー」の養成・派遣による訪問指導の充実に関して**<br>○　各施設に対する「保育・幼児教育アドバイザー」訪問指導体制を順次整備する。<br>○　研修及び連絡会議を実施（6回）し，指導力の向上と指導内容の共有を図る。<br>○　訪問指導を行う。（一人7園程度）<br>○　訪問指導における研修の形態の多様化を図る。<br>○　各施設に必要と思われる指導内容を協議し，指導資料作成に反映させる。<br>○　後の各市町のアドバイザー候補者に対する研修補助をする。<br>**3．保幼小連携推進モデル事業による就学前教育と小学校教育の接続の推進に関して**<br>○　保幼小連携・接続の研究（第２年次）に取り組む。<br>○　推進協議会の実施，大学教員及び指導主事による指導を行う。<br>○　第２年次の研究をまとめ，研究発表を行う。<br>○「実践事例パンフレット」を作成・配付する。<br>**4．大学・附属幼稚園・研究団体等との連携による取組の充実に関して**<br>○「保育・幼児教育アドバイザー」の訪問指導体制について助言を得る。<br>○「保育・幼児教育アドバイザー」連絡会議における指導を依頼する。<br>○　研究団体に指導資料作成委員を委嘱し，大学等の指導のもと，作成に取り組む。 |
| 3年目 | **1．「保育・幼児教育センター」を中核とした幼児教育推進体制の構築に関して**<br>○　幼児教育推進連絡協議会を実施し，取組の進捗状況と成果・課題を協議する。<br>・訪問指導・保幼小連携推進モデル事業・研修の実施・指導資料の作成<br>**2．「幼児教育アドバイザー」の養成・派遣による訪問指導の充実に関して**<br>○　各施設に対する「幼児教育アドバイザー」訪問指導体制を整備し，全園の半数に訪問指導を行う。（一人10園程度）<br>○　研修及び連絡会議を実施（８回）し，指導力の向上と指導内容の共有を図る。<br>○　連絡会議において，「保育・幼児教育アドバイザー」の養成・訪問指導における成果と課題についてまとめる。<br>**3．保幼小連携推進モデル事業による就学前教育と小学校教育の接続の推進に関して**<br>○　２年間の取組の成果の普及を図る。特に保育所と小学校の連携・接続を推進する。<br>○　他地域において，２年間の取組を踏まえた新たな指定研究を行う。<br>○　モデル事業による就学前教育と小学校教育の接続の推進の成果と課題についてまとめる。<br>**4．大学・附属幼稚園・研究団体等との連携による取組の充実に関して**<br>○　大学等と連携し，「保育・幼児教育センター」「保育・幼児教育アドバイザー」の在り方についての成果と課題を明確にする。<br>○　研究団体による指導資料活用事例を普及し，指導資料の活用を図る。 |

## 調査研究の内容

### １．「保育・幼児教育センター」の設置と機能の充実

本事業・本調査研究にあたり，徳島県教育委員会学校教育課内に，「保育・幼児教育センター」を設立した。また，従来より保育・幼児教育を所管していた各部署と連携し，担当者で事務局を編成した。

○　徳島県教育委員会学校教育課……公立幼稚園を所管

○　県経営戦略部総務課……私立幼稚園を所管

○　県次世代育成・青少年課……公私立保育所，公私立認定こども園を所管

以下の会の際には，事前に事務局会を開き，取組に対する共通理解を図った

#### (1) 徳島県内の幼児教育の実態把握

県内で幼児教育に携わる様々な立場の方々で構成し，把握している実態，課題と感じていること，要望等について協議した。また，今年度から取り組む本調査研究についても理解と協力を求めた。

○　平成２８年度第１回徳島県幼児教育推進連絡協議会

（平成２８年度第１回「徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ」推進連絡協議会）

ア　目　　的　　「子ども・子育て支援新制度」及び「徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ」の趣旨を踏まえ，徳島県における幼児教育の現状と課題，今後の幼児教育推進の方向性について，連絡・協議する。

イ　日　　時　　平成２８年７月１１日（月）

ウ　場　　所　　徳島県庁

エ　出　席　者　　藤井伊佐子（鳴門教育大学教授）

佐々木　晃（「幼稚園教育要領解説」等作成協力者，鳴門教育大学附属幼稚園長）

近藤　陽子（前学校訪問指導員，元幼稚園教育担当指導主事，人権教育指導員，徳島健祥会福祉専門学校講師）

安田　　修（徳島県市町村教育長会副会長，鳴門市教育委員会教育長）

久米　貴之（徳島市子ども施設課長）

泉　富士夫（徳島県国公立幼稚園・こども園ＰＴＡ連合会長，北島町北島南ＰＴＡ会長）

吉田　友紀（徳島県私立幼稚園ＰＴＡ連合会長，しらうめ幼稚園ＰＴＡ会長）

大和　忠広（徳島県保育事業連合会長，花しんばり子ども園長）

宮武　恵子（徳島県国公立幼稚園・こども園長会長，徳島市立助任幼稚園長）

岡本　和貴（徳島県私立幼稚園協会副会長，わかくさ幼稚園長）

住友　利行（吉野川市川島こども園長）

森田　範子（徳島市福島小学校教頭，前幼稚園担当指導主事）

県経営戦略部総務課長

県次世代育成・青少年課子ども・子育て支援室長

県教育委員会学校教育課長

（事務局）

県経営戦略部総務課主査兼係長

県次世代育成・青少年課子ども・子育て支援室長補佐

県教育委員会学校教育課学力向上推進幹

県教育委員会学校教育課統括管理主事

県教育委員会学校教育課指導主事

オ　議　　事　　・徳島県における幼児教育の状況と課題について

・「徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ」の概要について

・「徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ」に基づく取組の進捗状況について

・「幼児教育推進体制構築事業」の概要について

○　平成２８年度第２回徳島県幼児教育推進連絡協議会

（平成２８年度第２回「徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ」推進連絡協議会）

ア　目　　的　「子ども・子育て支援新制度」及び「徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ」の趣旨を踏まえ，徳島県における幼児教育の現状と課題，今後の幼児教育推進の方向性について，連絡・協議する。

イ　日　　時　平成２９年３月１４日（火）予定

ウ　場　　所　徳島県庁

エ　出　席　者　第１回と同じ

オ　議　　事　・「徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ」に基づく取組の進捗状況

・「平成２８年度幼児教育の推進体制構築事業」の取組の進捗状況

・「徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ」推進上の課題と方向性

**(2)「保育・幼児教育アドバイザー」の人選**

保育・幼児教育の専門的知見や豊富な実践経験を有する人材を「保育・幼児教育アドバイザー」として委嘱し，県内に配置した。県内の東西南北の４管区ごとに配置し，各管区の施設に派遣し，教育・保育内容や指導方法，指導環境の改善について助言・指導できるよう配慮した。「保育・幼児教育アドバイザー」人選にあたり，準備委員会を開催した。

①　平成２８年度　地域の幼児教育の拠点となる『保育・幼児教育センター』に係る準備委員会

ア　目　　的　「子ども・子育て支援新制度」及び「徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ」の趣旨を踏まえ，徳島県における「保育・幼児教育センター」の運営について，連絡・協議する。

イ　日　　時　平成２８年７月１１日（月）

ウ　場　　所　徳島県庁

エ　出　席　者　湯地　宏樹（鳴門教育大学教授）

佐々木　晃（鳴門教育大学附属幼稚園園長）

兼間　和美（四国大学生活科学部児童学科講師）

岩﨑　順江（徳島文理大学短期大学部保育科講師）

宮武　恵子（徳島県国公立幼稚園・こども園長会長，徳島市立助任幼稚園長）

岡本　和貴（学校法人わかくさ学園わかくさ幼稚園長）

森田　範子（徳島市福島小学校教頭，前幼児教育担当主事）

県経営戦略部総務課長

県次世代育成・青少年課子ども・子育て支援室長

県教育委員会学校教育課学力向上推進幹

（事務局）

県経営戦略部総務課主査兼係長

県次世代育成・青少年課子ども・子育て支援室長補佐

県教育委員会学校教育課統括管理主事

県教育委員会学校教育課指導主事

オ　議　　事　・徳島県における幼児教育の状況と課題について

・「幼児教育推進体制構築事業」の概要について

・「幼児教育アドバイザー」委嘱について

本会において，現在の県内の実態や要請に鑑み，保育・幼児教育アドバイザーとして，次のような資質・能力を育てていくことを目指すとした。

○　基本事項

・「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」

・乳幼児の発達

・指導計画の作成と保育の展開

○　専門事項

・幼児教育の動向と関係法令等

・組織マネジメント

・特別支援教育

・保幼小連携・接続

・カウンセリングマインド・ソーシャルワーカーとしての視点

○　実践的指導力

・園の保育の質向上と，保育者の資質向上を支える力

・各園の特徴を生かしたカリキュラムマネジメントを考えていく力

・徳島県の幼児教育の方向性を見出していく力

以上のような資質・能力の育成を図るため，次のような経歴の者に協力要請した。

○　元公私立幼稚園長経験者

○　元公私立保育所（園）長経験者

○　徳島県学校訪問指導員経験者

○　徳島県幼稚園等新規採用教諭研修指導員経験者

○　（元及び現）徳島県内教員養成系大学教員

○　（現場からの出向で）行政機関における福祉部局勤務経験者

○　徳島県教育委員会或いは市町村教育委員会幼児教育担当指導主事経験者

○　国私立大学附属幼稚園長経験者

○ 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」作成協力者

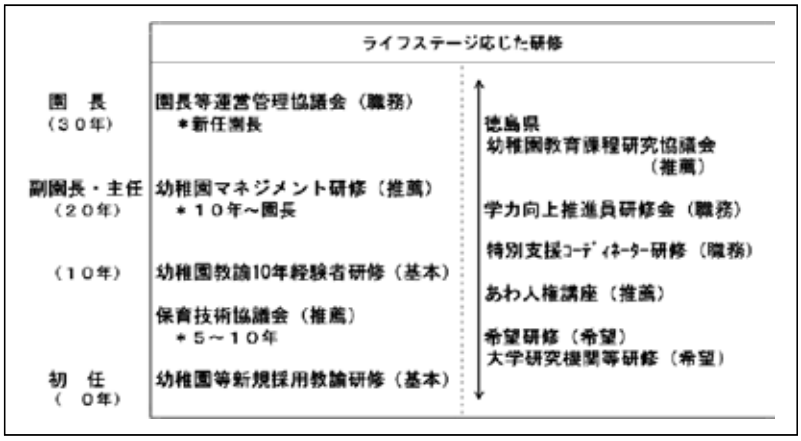
○ 徳島県教育委員会或いは市町村教育委員会特別支援教育担当指導主事経験者

○ 小学校指導教員

### (3) 保育所・認定こども園・幼稚園の保育者を対象とした幼児教育研修の充実

徳島県内において，各担当部局が主となり，様々な研修を実施している。以前は，それぞれの担当部局が担当する施設の保育者を対象とした研修であったが，私立幼稚園・認定こども園協会，保育事業連合会とも連携し，参加の門戸を広げる取組を拡大してきた。このことにより，研修の場において，異なる立場の交流が活発になり，徳島県の保育の質の向上に向けて，互いを理解し，連携を強めることが期待できる。

#### ア 県教育委員会主催研修




○ 【私立幼稚園，私立幼保連携型認定こども園は希望参加】

・新規採用　　・幼稚園等新規採用教諭研修Ⅱ

・幼稚園等１０年経験者研修

○ 【公私立保育所，私立幼保連携型認定こども園は希望参加】

・徳島県幼稚園教育課程研究協議会　　・保育技術協議会

・幼稚園等マネジメント研修

○ 【私立幼稚園，公私立保育所，私立幼保連携型認定こども園は希望参加】

・幼稚園長等運営管理協議会

#### イ 保育事業連合会主催の研修

○ 【公立幼稚園も希望参加】

・新任保育士研修　　・中堅保育士研修

・保育所リーダー研修　　・乳児保育担当者研修

・特別支援保育担当者研修　　・子育て支援担当者研修

・健康及び安全研修　　・保護者支援研修

・保育課程等研修　　・アレルギー及び食育研修

### (4) 保幼小連携推進モデル事業を実施・普及

徳島県内の２地域を，「保・幼・小・中連携推進事業『学びのかけ橋』プロジェクト」研究地域に指定し実践をふまえた研究を進めている。各地域において幼稚園と小学校・保育所と小学校の連携について鳴門教育大学教員を招聘し，実地指導を行った。加えて，年２回の推進協議会を開催し，研究の方向性や成果等について協議した。

**【東みよし町】**

**①　第１回推進協議会**

ア　日　　時　　平成２８年５月２３日（月）

イ　場　　所　　東みよし町教育委員会

ウ　出　席　者　　推進協議会委員２４名事務局３名

エ　協 議 内 容　　・研究を進めるための具体的方策について

・県内への普及について等

**②　鳴門教育大学教員による訪問指導**

ア　日　　時　　平成２８年７月８日（金）

イ　場　　所　　足代幼稚園（小学校交流）

ウ　訪問指導者　　鳴門教育大学教授木下光二

**③　鳴門教育大学教員による訪問指導**

ア　日　　時　　平成２８年７月１３日（水）

イ　場　　所　　三庄幼稚園（三庄小学校交流）

ウ　訪問指導者　　鳴門教育大学教授木下光二

**④　あわ（ＯＵＲ）教育発表会による成果の普及**

ア　日　　時　　平成２８年１２月２６日（月）

イ　場　　所　　徳島県立総合教育センター

**⑤　第２回推進協議会**

ア　日　　時　　平成２９年２月１３日（月）

イ　場　　所　　東みよし町教育委員会

ウ　出　席　者　　推進協議会委員２４名事務局３名

エ　協 議 内 容　　・平成２８年度研究実践報告

・研究内容の広報及び成果の普及

・今後の取組促進等

平成28年度　徳島県東みよし町幼・小・中連携推進事業

# 「学びのかけ橋」プロジェクト

三加茂中学校　加茂小学校　三庄小学校
加茂幼稚園　三庄幼稚園
三好中学校　足代小学校　昼間小学校
足代幼稚園　昼間幼稚園

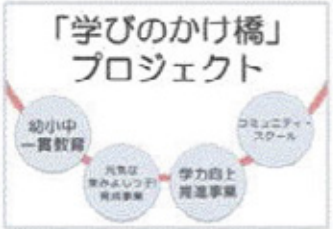
## 研究テーマ

相互の理解と交流を中核とし，地域とともにある幼小中の連携のあり方
～すべての子どもの「元気に登校，楽しい学校生活，笑顔で下校」のために～

## 東みよし町の目指す教育

未来を創造し逞しく生きる子どもの育成
- 0歳から15歳までを接続した教育の構築
- コミュニティ・スクールの推進

4事業が連携した取組
- 幼小中一貫教育
- 元気な東みよしっ子！育成事業
- 学力向上推進事業
- コミュニティ・スクール



[方 策]

○中学校区別に，幼稚園・小学校・中学校をひとつの学園として構想し，学園内で連携を図る

○小学校から中学校まで，9年間を見通したカリキュラムを考える
「三加茂学園小中キャリア教育全体計画」
「三好学園小中キャリア教育全体計画」

○幼小中の計画的な連携

○地域(学校支援隊)との連携

## 幼小連携

接続カリキュラムを見直した連携

園児が楽しみにしている小学生の読み聞かせ

「楽しもう！秋」
1年生が園児を招待

- 接続を意識して，計画的な交流でスムーズな連携がとれた
- 幼稚園と小学校の相互理解が深まった
- 幼稚園と小学校の交流が活発になった
  - ・園児には小学校が身近な存在になった
  - ・小学生は自己有用感が高まった

## 小中連携

中学校の教員が小学校で授業を行う乗り入れ授業や課外活動・授業等で中学校の教員や生徒が指導する小中の交流

中学校の教員による
ソフトボール投げの指導

中学校の合唱コンクール
を鑑賞

- 中学校の先生に親しみがもてた
- 中学校の学習への期待感が高まった
- 中学生を尊敬するようになった
- 自己有用感が高まった

## 幼小中連携

フリー参観や幼小中合同研修会での連携

新１年生の様子が気になる
５月のフリー参観

講演会後のグループ討議

- 教職員の情報交換がしやすくなった
- 校種間で身につけておくべきことを知った
- カリキュラムの違いや課題が見えてきて，相互理解ができた
- 専門性を生かした指導や交流により，連携の効果や必要性がわかった

## 地域連携

学校支援隊の方々によるコミュニティ・スクール活動

高齢者と語る子どもの会

七夕集会

- 地域の人に学校の現場を知ってもらえた
- 生徒の居場所づくりや学習の支援が子どもたちのためになっている
- 教師の負担が軽くなった

**【阿南市椿町中学校区】**

**①　第１回推進協議会**

ア　日　　時　　平成２８年６月２日（木）

イ　場　　所　　椿小学校

ウ　出　席　者　　推進協議会委員１６名事務局３名

エ　協 議 内 容　　・研究を進めるための具体的方策について

・県内への普及について等

**② 鳴門教育大学教員による訪問指導**

ア　日　　時　　平成２８年６月１６日（木）

イ　場　　所　　椿保育所（椿小学校交流）

ウ　訪問指導者　　鳴門教育大学准教授森康彦

**③ 鳴門教育大学教員による訪問指導**

ア　日　　時　　平成２８年６月２２日（水）

イ　場　　所　　椿泊漁港（椿保育所・椿泊小学校交流）

ウ　訪問指導者　　鳴門教育大学准教授森康彦

**④ 鳴門教育大学教員による訪問指導**

ア　日　　時　　平成２９年２月２日（木）

イ　場　　所　　椿泊小学校（椿保育所交流）

ウ　訪問指導者　　鳴門教育大学准教授森康彦

**⑤ 鳴門教育大学教員による訪問指導**

ア　日　　時　　平成２９年２月６日（月）

イ　場　　所　　椿保育所（椿泊小学校交流）

ウ　訪問指導者　　鳴門教育大学准教授森康彦

**⑥ 第２回推進協議会**

ア　日　　時　　平成２９年３月２日（木）

イ　場　　所　　椿小学校

ウ　出　席　者　　推進協議会委員１６名事務局３名

エ　協 議 内 容　　・平成２８年度研究実践報告

・研究内容の広報及び成果の普及

・今後の取組促進等

２地域による研究の成果をまとめたリーフレットを作成（■資料編に掲載）し，県内全ての公立・私立の幼稚園・保育所・認定こども園，小学校に配布した。

## ２．「保育・幼児教育アドバイザー」の養成・派遣による訪問指導の充実

### (1)「保育・幼児教育アドバイザー」の委嘱及び資質向上

#### ①　アドバイザー会議及び研修会

「平成２８年度地域の幼児教育の拠点となる『保育・幼児教育センター』に係る準備委員会」を受け，保育・幼児教育アドバイザーを招聘し，「平成２８年度第１回徳島県保育・幼児教育アドバイザー会議」を開催した

ア　目　　的　　徳島県保育・幼児教育センターにおける保育・幼児教育アドバイザーの業務について，連絡・協議する。

イ　日　　時　　平成２８年９月１６日（金）

ウ　場　　所　　徳島県庁

エ　議　　事　　・「幼児教育推進体制構築事業」の概要について

・「保育・幼児教育アドバイザー」の業務について

・今後の予定

本会議は，保育・幼児教育アドバイザー全員の初顔合わせの場であり，第１回「保育・幼児教育アドバイザー研修」の場を兼ねることとした。「徳島県保育・幼児教育スーパーバイザー」である鳴門教育大学・湯地宏樹教授より，「幼稚園教育要領の改善イメージ」「保育所保育指針の改定に関する中間とりまとめ」等，現在の動向について講義を行った。また，既に業務に携わっていた者，徳島県幼稚園等新規採用研修・園内研修指導員も兼ねているメンバーより，園に訪問し，保育の現場でアドバイスを行う様子，方策，留意点等について，報告・協議し，アドバイザー業務の参考とした。

アドバイザーにも，専門的な識見をもつ者が多い。特別支援教育，保育者の自己研修の場等，貴重な情報を提供し合うことができる場ともなった。また，これまで同一市町村で勤めることが多かったため，新たな出会いの場ともなった。

### ② 県内の研究会への参加

また，県教育委員会が関連している県内の研究会への参加も研修の場とし，案内した。

| | |
|---|---|
| ア　研究会名 | **第１０回徳島乳幼児・児童教育実践研究大会**<br>**子どもの発達を見通した保育・教育のあり方** |
| イ　日　　時 | 平成２９年１月２８日（土） |
| ウ　場　　所 | 四国大学 |

近年，認定こども園への移行に伴う保育所と幼稚園の一体化・一元化とその保育のあり方，小学校教育への円滑な接続などが課題となっている。一人一人の子供をよりよくするための取組について，保育所，幼稚園，小学校，小学校（特別支援学級）からそれぞれ実践報告があった。その後，鳴門教育大学附属幼稚園・佐々木晃園長の講演「保育のちから－保育技術を科学する－」を拝聴した。アドバイザーは，新しい識見を深めるとともに，実践報告の際には，積極的に意見を述べた。

| | |
|---|---|
| ア　研究会名 | 第６３回小学校教育研究会<br>協創の教育－「新しい価値」を創り出す子どもを育てる－ |
| イ　日　　時 | 平成２９年２月１１日（土） |
| ウ　場　　所 | 鳴門教育大学附属小学校 |

第１学年は，同大学附属幼稚園との連携・接続をテーマとして取組を公開するため，幼小接続について識見を高める研修の場と位置づけ案内した。１年１組が（生活科），１年２組が（国語科），１年３組が（図画工作科）の内容や資質・能力の連携・接続を意識した学びを公開した。

午後からのシンポジウムでは，文部科学省から水戸部修司氏・澤井陽介氏・笠井健一氏

・鳴川哲也氏の４名をお招きし，次期改訂学習指導要領の動向について，お話をいただいた。幼児教育の動向にも関連する話題であり，研鑽を深めた。

また，次の研修会・研究大会は，アドバイザーを派遣し，学んだことを後のアドバイザー会議・研修会で報告するようにした。

| | |
|---|---|
| ア　研究会名 | **平成２８年度幼児教育指導者養成講座** |
| イ　日　　時 | 平成２８年１１月３０日（水）～１２月２日（金） |
| ウ　場　　所 | 独立行政法人教員研修センター |

| | |
|---|---|
| ア　研究会名 | **日本臨床発達心理士会中国・四国支部第４２回研修会**<br>**発達につまずきのある子どものコミュニケーション力を育てる支援** |
| イ　日　　時 | 平成２９年２月１２日（日） |
| ウ　場　　所 | 愛媛大学教育学部 |

| | |
|---|---|
| ア　研究会名 | **日本教師学学会第１８回大会**<br>**「教師学のこれから」**<br>**「「教える」の本質とは何か～「教える」を見直す１～（仮）」** |
| イ　日　　時 | 平成２９年３月４日（土），５日（日） |
| ウ　場　　所 | 早稲田大学所沢キャンパス |

| | |
|---|---|
| ア　研究会名 | **第１回日本保育者養成教育学会研究大会** |
| イ　日　　時 | 平成２８年３月５日（日） |
| ウ　場　　所 | 白百合女子大学キャンパス |

### ③　先進地視察

先進地視察を行い，事業の推進について示唆を得た。

| | |
|---|---|
| ア　日　　時 | 平成２８年７月２０日（水） |
| イ　場　　所 | 高知県教育委員会 |
| ウ　内　　容 | ・幼児教育センターの設置について<br>・アドバイザーの業務について　　等 |

ア　日　　時　　平成２９年２月２４日（木）

イ　場　　所　　群馬県総合教育センター内幼児教育センター

ウ　内　　容　　・幼児教育センターの運営について

・アドバイザーの業務について

ア　日　　時　　平成２９年２月２３日（木）～２４日（金）

イ　場　　所　　神戸大学附属幼稚園

神戸ＹＭＣＡ学園西神戸ＹＭＣＡ幼稚園

ウ　内　　容　　・保育のあり方

・幼小の接続等

### (2)「保育・幼児教育アドバイザー」による訪問

#### ①　保育・幼児教育アドバイザー業務

今年度（平成２９年２月２２日現在）の訪問については，大きく以下の業務に区別される。

①　保育の時間帯に訪問し，保育参観をし，後の研究会のなかで，助言或いは講演等をする。

② 保育者対象の研修会に参加し，講演等をする。

③ 保護者対象の会合に参加し，講演等をする。

④ 保育者の相談にのる。

#### ①　業務実績

業務実績は，次のとおりである。

**①　保育時間の訪問**

○　公立幼稚園……３２回（１園に２回訪問した場合が１例あり）

○　公立幼保連携型認定こども園…… ５回

○　私立保育園…… １回

**②　保育者対象の研修会（助言或いは講演講師）**

○　公立幼稚園教員・園長対象の研修会…… ９回

○　公立幼稚園園長対象の研修会…… １回

○　保育教諭・こども園長対象の研修会…… ３回

○　保育士対象の研修会……　３回

○　私立幼保連携型認定こども園保護者対象の研修会……　１回

○　特別支援学校教員対象の研修会……　１回

○　中学校区別研修会……　２回

**③　保護者対象の講演会**

○　公立幼稚園保護者会……　１回

**④　保育者からの相談対応**

○　公立幼稚園……　７回

○　私立保育園……　２回

保育時間の訪問を担当したアドバイザーには，以下の観点から訪問記録を記すようにした。

ア　幼稚園教育要領等に基づいた教育

イ　保育・教育課程の編成・指導計画の作成と保育の展開

ウ　環境の構成と保育者のかかわり

エ　発達や学びの連続性を踏まえた教育

オ　園運営

平成２８年度　徳島県教育委員会幼稚園・幼保連携型認定こども園　訪問記録用紙

○○市・町　○○○園　平成28年　月　日　曜日　天候

訪問者氏名　園長名：　※　もしおりかがいになったのなら　幼児数：　人　学級数：　学級

①幼稚園教育要領等に基づいた教育
・幼児の主体性を促し幼児期にふさわしい生活が展開されているか。
・遊びを通しての指導により，ねらいが総合的に達成されているか。
・幼児一人一人の特性に応じて，学級の機能に即した指導が行われているか。

②教育課程の編成・指導計画の作成と保育の展開
・教育課程の編成及び指導計画（月・週）・指導案の作成は適切になされているか。
・指導計画に基づいて，保育が展開されているか。
・保育実践を通して，教育課程や指導計画の改善が図られているか。

③環境とのかかわりと環境の構成
・幼児理解が適切になされているか。
・教師の意図やかかわりは適切か。
・幼児理解，教師の意図に基づいた環境の構成は適切か。

④発達や学びの連続性を踏まえた教育
・小学校以降の学習や生活を見通した教育が展開されているか。
・小学校との連携・接続の状況はどうか。
・保育所等との連携の状況はどうか。

⑤園運営
・園の教育目標や重点事項が教職員に共有され，園運営に生きているか。
・園の特色や実態を活かした園運営がなされているか。
・家庭や地域社会との連携は適切か。
・次の点は適切か。（学校評価の実施状況，特別支援教育に係る指導体制，指導管理体制，園内研修の実施状況，預かり保育・子育て支援活動の実施状況）

| | | |
|---|---|---|
| 保育 或いは 保育研究会等 | おねらい 指導内容 | ※保育のねらいを記入してください。ただ，指導案等もない場合が多いので，会話等のなかで把握できたらでかまいません。<br>※指導内容について記入してください。<br>○歳・△△組……ねらい　×××××××××××××××<br>指導内容　×××××××××××××××<br>○歳・○○組……ねらい　×××××××××××××××<br>指導内容　×××××××××××××××<br>※保育のねらいを記入してください。ただ，指導案等もない場合が多いので，会話等のなかで把握できたらでかまいません。 |
| | 質問事項 協議事項 | ※受けた質問事項或いは話題となったことを記入してください（箇条書き可）。 |
| | 指導助言 | ※箇条書き可 |
| 所見 | | ※　ここには，幼稚園等の教育活動全般についてのご感想を記入してください。<br>※　その幼稚園等の課題であると感じたことがあれば，記入してください。<br>※　改善への提言があれば，記入してください。 |

平成２８年度　徳島県　保育所　訪問記録用紙

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学校教育課長 | | 指導官 | | 総括 | | 記録者 | | 他 | |

○○市・町　○○○園　平成28年　月　日　曜日　天候

訪問者氏名　園長名：　子供の数　人　クラス数

①保育所保育指針等に基づいた保育

②保育課程の編成・計画の作成と保育の展開

③保育者とのかかわりと環境の構成

④発達や学びの連続性を踏まえた教育

⑤園運営

| | | |
|---|---|---|
| 公開保育及び保育研究会 | おねらい 内容 | |
| | 質問事項 | |
| | 協議事項 | |
| | 指導助言 | |
| 所見 | | |

## ② 保育・幼児教育アドバイザーの関わり方

### ア 保育参観

後の保育研究会における助言の話題とするため，細かく保育の様子を参観した。また，建物の構造や環境構成について，園長等と園内を見学した。

「何をしているの？」(「おにごっこ」と返事)

「何おにごっこをしてるの？」(再び「おにごっこ」と返事)

研究会にて……「普通のおにごっこだけでなく、いろんな種類のおにごっこを経験させてほしい。「発展」から考えると，〇〇おに，△△おに…もありますね。」

研究会にて……「先生が誘導して遊びと遊びをつなげていけるといい。例えば、ボール遊びをしている園児のところへ泥遊びをしている園児がケーキを売りに行けば、そこでも園児どうしの関わりができる。」

### イ 遊びへの参加・園児への語りかけ

園児とことばを交わしながら遊びに関わった。

「運動会で使用した縄を木にくくりつけて、上ったりぶらさがったりできるようにしているのはとてもいい案。」

「とっても上手にできているからジュース屋さんができるね。」園庭に咲いている花を使って色水を作っている園児たちとアドバイザー。

同じオレンジ色でも濃淡をつけて作っている園児には，「こっちとこっちで色が違うね。」

### ウ　保育者への関わり

保育中の保育者に寄り添い，ことばをかけたり，ときには保育に加わったりした。

秋の自然物を色紙で表現する場において，「ちょっといいかしら。」と前に立ち，黒板の位置を変え，ことばがけを始めた。園児が取り組み始めると，すかさずその意図を保育者に語りかけた。

また，発達に合わせたより簡単な製作物の作り方も伝え，保育者も熱心に聞き入った。

保育士の傍らに寄り添い，子供の特徴を聞いたり，日々の様子を聞いた。自然と出てきた悩みと取組について，「それで大丈夫よ。」と理由を交えて丁寧に説明をしていた。

### エ　保育研究会での意見交換や助言

当日の保育について，保育者から意図の説明を受けたうえで，意見を交流したり，受けた質問に答えたりした。

保育の様々な様子を写真に収め，スクリーンに映しながら，各場面に見える遊びや保育について，その意義や課題，改善点を述べた。ときには，保育者にその意図を尋ねたり，別の保育者に意見を求めたりして，話合いを深めた。

かつて，当園での勤務経験があるアドバイザーからは，ひと味違った話も聞くことができる。ある一本の木に込められた思い，この場所にこの環境設定をした意図，この園の根底に流れる理念など，興味深い話が続いた。日誌等の記録物も交えた話合いの場となった。

### オ　保育者の研修会で講演・演習

子供を惹きつけ，明日からの保育にすぐ使ってみたくなる遊びのいつくかを教えていただき，自ら取り組んで楽しさを味わった。

講演のテーマ例は，「保育の姿勢」「遊び」「環境構成」「幼小連携・接続」「保育技術」「乳幼児の特性」等。写真は，中堅保育士を対象とした講演。

勤務の事情により，研修会が夜間になることもあるが，町内の保育士の方が熱心に集まった。具体的な演題は決めず，思い思いの質問や話題を出し，それに答えた。

### カ　保護者や教員に向けての講演

保育参観の日に，保育を参観した後，保護者を対象に話をした。保育の様子を把握しての内容であるため，具体性に富み，保護者・保育者双方の目線の話をした。

### ③　訪問記録に見る評価の特徴

各アドバイザーの訪問記録を分析した。

ア　幼稚園教育要領等ら基づいた教育

イ　教育課程の編成・指導計画の作成と保育の展開

ウ　環境の構成と教師のかかわり

エ　発達や学びの連続性を踏まえた教育

オ　園運営

以上の訪問記録の５観点に基づき，保育参観を通して，アドバイザーが挙げた評価点・課題点は，次のようになった。これらは，保育者・アドバイザー共に，保育或いは保育観察における重要な着眼点の目安となる。

#### ア　幼稚園教育要領等に基づいた教育

| 評価点 | 課題点 |
|---|---|
| ＜ふさわしい生活の展開＞ | ＜教師の意図性に関する課題＞ |
| ＜異年齢交流の意義＞ | ＜環境構成に関する課題＞ |
| ＜教師の適切な援助＞ | |

#### イ　保育・教育課程の編成・指導計画の作成と保育の展開

| 評価点 | 課題点 |
|---|---|
| ＜教育課程・カリキュラムマネジメント＞ | ＜幼児の姿や教師の願いに関する課題＞ |
| ＜幼児理解に基づく指導計画＞ | ＜指導案の具体的内容に関する課題＞ |
| ＜短期・長期の指導計画＞ | |

#### ウ　保育者とのかかわりと環境の構成

| 評価点 | 課題点 |
|---|---|
| ＜物的環境：自然・栽培物・飼育物など＞ | ＜環境構成に関する課題＞ |
| ＜物的環境：屋外の空間・遊具など＞ | ＜保育者の援助に関する課題＞ |
| ＜物的環境：室内環境など＞ | ＜特別支援に関する課題＞ |
| ＜人的環境：教師の援助など＞ | |

### エ　発達や学びの連続性を踏まえた教育

**評価点**

＜保育所との交流＞

＜小学校との交流＞

＜幼児と児童の交流など＞

＜教師間の交流など＞

＜学びの芽生え・教育課程の接続など＞

**課題点**

＜発達や学びの連続性に関する課題＞

＜幼小接続等に関する課題＞

### オ　園運営

**評価点**

＜園の独自性・教育目標＞

＜園長のリーダーシップ

・職員の協力体制＞

＜職員の研修体制＞

＜家庭との連携・子育て支援センター＞

＜地域との連携＞

**課題点**

＜休園・廃園等に関する課題＞

＜教職員等に関する課題＞

＜保護者対応等に関する課題＞

＜認定こども園等に関する課題＞

また，寄せられた質問事項や話題については，次のように大別できる（詳細は，■資料編）。

＜少人数保育＞

＜教師の指導・援助＞

＜食育＞

＜同僚性・研修の在り方＞

＜幼保小接続＞

＜指導計画＞

＜遊び込む環境＞

＜特別支援＞

＜認定こども園＞

これらの項目については，現場の関心が高く，質問内容は，さらに細分化され多岐にわたっている。換言すれば，アドバイザーは，これらの項目について，より専門的な知見が求められるということであり，研修を重ねる必要があると言うことができる。

## 成果と課題

**【成果】**

### １．県内の幼児教育施設・機関との連携への足がかり

訪問対象は，事業開始直後の公立幼稚園及び公立幼保連携型認定こども園から，私立保育園・公私立幼保連携型認定こども園・県立特別支援学校へと拡大した。また，アドバイザー人選，広報については，徳島県私立幼稚園・認定こども園協会，徳島市役所子ども施設課，徳島県保育事業連合会等の機関の協力もあった。県内全体の保育の質を向上させていくため，連携の貴重な足がかりにとなった。

### ２．新たな研修スタイルの拡大

アドバイザーが訪問し，保育の様子を見たうえで，助言したり質問に応じたりすることにより，園を空けずに研修を行うことができた。また，保育者全員がアドバイザーの話を聞いたり，相談をしたりする機会ができるよう，訪問当日はシフトを組む等，園側も，保育者全員の研修となる工夫を凝らしていた。

（実施後のアンケートより）

・「保育の中へ入り子供と関わったりしていただき，また子供の遊びや友達との関わり・環境などを見てくださりその場その場で感じたことを教えてくださいました。」

・「学級活動や，戸外での活動ともに様々な角度から保育を見て頂き助言をいて頂きました。」

・「２歳児クラスの様子や気になる子どもの遊んでいる姿を見ていただいた。ひとりひとりにより運動的な発達が未発達な子どもさんもいるので感覚刺激の遊びと保育の中で取り入れたり，他児とのトラブルの場面での言葉がけ，ほめる言葉がけを増やして，その子の心の声を引き出していくなど，具体的に事例をあげて話してくださった。」

・「当日の園児の様子や教職員並びに保護者の動き等，それに付随する環境の写真をもとにプロジェクターで投影しながら指導を受けた。それぞれの画像について，どのような教育的価値があるのか具体的な指導でとてもわかりやすかった。」等

### ３．「見える」化（視覚化），「語る」化（言語化）に必要なことばの獲得

保育の質の向上を目指し，カリキュラムマネジメントを始めとして，自らの保育を振り返ったり，意味づけたりする必要性が高まっている。アドバイザーからの助言により，自己の保育を振り返る観点や意味づける語彙を獲得することができた。換言すれば，自らの保育を実感的

に理解することができたとも言え，それが保育者の自信や意欲の向上に資することとなった。

（実施後のアンケートの一部より）

・「元保育所に勤務されていた経験や大学教員の視点から，保育，教育について環境などについて見てくださったことに安心できた。また，共感してくれ認めてくれることでこれからも保育・教育を頑張りたいと職員が感じ，意欲へとつながった。」

・「保育の経験が豊富で，質問等にも的確にお答えいただきわかりやすく，お話のしやすい雰囲気作りもして下さり感謝している。現実的な保育・教育での状況について，共に考えて進んでくださる先生であると実感した。」

・保育の様子をプラスな面でとらえて頂いたことがとても励みになり，職員の意欲につながった。迷いながらの小規模園の保育だが，今回のアドバイスがとても心強く感じた。

・「（教員の数も少なく）日常の保育の中では，客観的な立場から自分たちの指導方法や活動内容について指導や助言をしてもらうことがないので，このような機会をいただき，本当に有り難く思った。自分では，やっているつもりだったけれど，足りない所を教えていただけたので，これから改善していきたい。」

・「自分たちの保育を振り返り見直すことができるよい機会となった。」

・「遊びの内容・教師のかかわり方など，また質問事項に対して適切な指導方法を丁寧にご指導頂いた。今後の指導に役立てていきたい。」

・「本園には活気があるという良さが有り，人数が多いといろいろな活動ができることを教えていただき，本園の実態を改めて見つめ直すことができた。」　等

## ４．保育の現場の要請の把握

訪問後に寄せられたアンケートに，学んだなかに印象深かったことが記されていた。つまり，これらが現場の関心事であり，学びを深めたいことと解釈できる。したがって，今後のアドバイザー研修において，取りあげるべきテーマとして考慮しなければならないことが確認できた。

（実施後のアンケートの一部より）

○　定型発達

○　幼児期の特徴，発達段階

○　幼児を育む上で大切にすべきポイント

○　認定こども園のよさ

○　保育教諭の立ち位置

○　現在の子育ての環境

○　発達のうえでの保育者の悩み

・０，１歳児の表現活動の経験の持たせ方

・１歳児のかみつきなどの保護者への対応

・２歳児の生活面での気にかかる行動

・４歳児のトラブル時期についての対応

・５歳児のリーダー的な子どものとらえ方

○　発達に合わせた人的環境，そこの場所での環境を作るなど環境の大切さ
○　幼児理解
○　言葉の指導計画
○　文字への手引き
○　遊具への仕掛け（例雲梯にできるものは）
○　１日の保育の流れ
○　絵についての見方
○　子どもへの信頼感
○　職員間の連携
○　育てたいものの明確化
○　発問
○　指導案
○　人権感覚等

## ５．「遊び・学び」の連続性の充実に向けた改善

交流・連携・接続の取組を重ね，互恵性の内実及び効果を高めるポイントが明確になってきたことが確認できた。

推進協議会を立ち上げ，組織的に取り組むことにより，次のような改善がみられた。

・担任・担当の者だけでなく，管理職の意識改革を図り，学校全体としての取組に広げることができた。

・コーディネーターを配置することにより，計画性のある交流活動とともに，指定地域にある全ての保幼小学校の足並みをそろえた実践が可能になった。

・保護者や地域の方々にも協議会委員として協議していただくことによって，地域で子供達の保幼から中学校までの学びを支えるという意識が高まった。

また，鳴門教育大学の先生方に交流活動の場で具体的に御指導いただいたことによって，次のような改善がみられた。

・幼児，児童が共に活躍し，それぞれの学びを保障する互恵性のある活動を設定することができた。

・保育所，幼稚園における学びについて，小中学校の先生方も共通理解を図り，学びを繋ぐことの重要性を再認識することができた。

## ６．人材の活用

徳島県の保育現場の年齢構成の実態などより，保育に関する知識，技能，園の文化，各市町村の保育・幼児教育に関する文化等の継承が課題となっている。一方で，現場から離れていても，保育への熱意を抱き，役に立ちたい，学んだことを伝えたい，保育の世界に恩返しをしたいと言う者は多い。本事業が，現場と保育に貢献したいと願う者とをつなぐ一助となったことが確認できた。

【課題】

## １．訪問指導先の施設の拡大

取組初年度である本年度は，訪問対象について，施設の種類の拡大は見られたものの，訪問数を増やすことができなかった。より広報に努める必要がある。そのためには，徳島県私立幼稚園・認定こども園協会や徳島県保育事業連合会と，研修や研修体制について連携し取り組む必要がある。

## ２．保育・幼児教育アドバイザーへの負担

以下の点について，不安が残る案件もあった。解決・軽減に向いて対策を考える必要がある。

・体調面

・（移動時の）安全面

・資料作成の負担等

また，センターの人員が少なく，連絡調整等，サポートが十分にできなかったことも課題である。

## ３．多様なアドバイザー研修の必要性

【成果】４から明確なように，保育現場の要請は多岐にわたっている。アドバイザーには，時代の変化により生まれた新たな課題や，現在改訂が進められている「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に関する新しい情報に対応できることが求められる。そのためには，アドバイザーの研修なり養成が急務であるが，一堂に会する調整には困難を極めた。一堂に会して行う研修以外に，多様な研修の在り方を模索しなければならない。

例　・可能な者を県外の研修会等に派遣し，得た情報を共有する

　　・新たに得た情報については，会報等にして送付する

また，現在行っている保育・幼児教育関係の研修会・研究会をアドバイザー研修の場に重ねるよう主催側と連携したい。

## ４．「訪問指導」に対する意識

アドバイザーの訪問は，保育現場の取組を意味づけしたり，自らの取組を振り返る視点なり語彙を助言したりすることを主たる目的としている。現場が「訪問」をポジティブに捉えていただくよう説明を重ねる必要がある。

## ５．継続的な関わり（継続的な研修の実施の可能性）

「定期的に，或いは数ヶ月に一度ぐらい訪問していただきたい」との声もあった。一度の訪問及び助言で，効果を実感することは，現場にもアドバイザーにも困難である。訪問の一つの

形態として，考慮したい。

## ６．調査指標の設定と調査の実施

【課題】５に関連し，「アドバイザー事業の効果」「幼（保）小連携の状況」「保育者の意識の変容」「子供の変容」等を調査し，エビデンスを蓄積する必要がある。サンプリング調査ができるよう，関係機関等にも相談し，調査項目の精選，対象園への依頼等，準備を進めていきたい。

## ７．「遊び・学び」の連続性を充実させる手立て

幼児教育で育つ力を明確にし，学びを繋ぐ教育課程（アプローチ・スタートカリキュラム）を作成する。

年間交流計画を検証・改善するとともに，交流の中身を一層充実させる。

# ■　推進事業の資料

## 資料１　徳島県における幼児教育の状況

### 徳島県における幼児教育の状況

〔乳幼児数の変化〕　H28.4確認　統計戦略課「年齢別推計人口」（人）

| | 平成17年度 | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ０歳児 | 6,205 | 5,852 | 6,038 | 5,865 | 5,813 | 5,720 | 5,822 | 5,767 | 5,505 | 5,446 | 5,462 | 5,211 |
| １歳児 | 6,536 | 6,135 | 5,964 | 6,146 | 6,013 | 5,973 | 5,589 | 5,965 | 5,889 | 5,699 | 5,572 | 5,165 |
| ２歳児 | 6,777 | 6,328 | 6,153 | 5,930 | 6,139 | 6,021 | 5,722 | 5,595 | 5,979 | 5,896 | 5,701 | 5,222 |
| ３歳児 | 7,043 | 6,605 | 6,331 | 6,131 | 5,928 | 6,140 | 5,845 | 5,773 | 5,615 | 6,006 | 5,893 | 5,366 |
| ４歳児 | 7,171 | 6,380 | 6,597 | 6,333 | 6,123 | 5,925 | 5,989 | 5,838 | 5,784 | 5,621 | 6,018 | 5,516 |
| ５歳児 | 6,931 | 6,996 | 6,870 | 6,577 | 6,302 | 6,141 | 5,818 | 6,001 | 5,846 | 5,744 | 5,598 | 5,606 |
| 計 | 40,663 | 38,796 | 37,953 | 36,982 | 36,318 | 35,920 | 34,785 | 34,939 | 34,618 | 34,412 | 34,244 | 32,086 |

〔保育所設置状況・入所園児数（０歳～５歳）〕　H28.4　次世代育成・青少年課調べ

| | 平成17年度 | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 施設数（園） | 222 | 223 | 220 | 217 | 214 | 213 | 214 | 216 | 214 | 209 | 198 | 188 |
| 入所園児数（人） | 14,241 | 13,979 | 13,706 | 13,590 | 13,579 | 13,821 | 13,961 | 14,327 | 14,523 | 14,821 | 13,861 | 13,172 |

※平成27年度からは，幼保連携型認定こども園を除く。保育所型認定こども園を含む。

〔幼稚園の設置状況〕　※休園数は含まない　H28.5　学校教育課調べ（園）

| | 平成17年度 | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 国立 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 公立 | 168 | 166 | 162 | 157 | 153 | 150 | 148 | 141 | 142 | 138 | 123 | 117 |
| 私立 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 11 | 10 | 9 |
| 計 | 181 | 179 | 175 | 170 | 166 | 163 | 161 | 154 | 155 | 150 | 134 | 127 |

※平成26年度までは，幼保連携型認定こども園を含む。

〔幼稚園児数〕　H28.6　教育創生課「学校基本統計」（人）

| | 平成17年度 | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ３歳児 | 594 | 627 | 594 | 515 | 495 | 544 | 513 | 544 | 500 | 433 | 596 | 515 |
| ４歳児 | 3,700 | 3,707 | 3,650 | 3,617 | 3,359 | 3,172 | 3,301 | 3,196 | 3,211 | 3,077 | 2,796 | 2,606 |
| ５歳児 | 4,832 | 4,834 | 4,770 | 4,506 | 4,443 | 4,174 | 3,904 | 4,016 | 3,851 | 3,839 | 3,307 | 3,233 |
| 計 | 9,126 | 9,168 | 9,014 | 8,638 | 8,297 | 7,890 | 7,718 | 7,756 | 7,562 | 7,349 | 6,699 | 6,354 |

※平成26年度までは，幼保連携型認定こども園を含む。

〔就園率〕※小学校1年生の児童数に対する幼稚園修了者数の割合　(全国)H28.8 総務省統計局「学校基本調査」･(徳島県)H28.8 学校教育課調べ　（%）

| | 平成17年度 | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全国 | 58.4 | 57.7 | 57.2 | 56.7 | 56.4 | 56.2 | 55.3 | 55.1 | 54.8 | 54.2 | 53.3 | 48.4 |
| 徳島県 | 71.1 | 68.6 | 68.6 | 68.1 | 67.5 | 68.3 | 65.8 | 66.0 | 65.4 | 64.4 | 64.2 | 57.7 |

〔認定こども園設置予定・実績〕　H28.4　次世代育成・青少年課調べ　（園）　　〔認定こども園児数〕

| | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | | | 平成28年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 幼保連携型認定こども園（公立） | 3 | 7 (10) | 1 (11) | 0 (11) | 1 (12) | 1 (13) | | | 1,324 |
| 幼保連携型認定こども園（私立） | 1 | 2 ( 3) | 9 (12) | 3 (15) | 1 (16) | 0 (16) | | | 1,501 |
| 幼稚園型認定こども園（公立） | 0 | 0 ( 0) | 0 ( 0) | 0 ( 0) | 0 ( 0) | 0 ( 0) | | | 0 |
| 幼稚園型認定こども園（私立） | 0 | 0 ( 0) | 0 ( 0) | 0 ( 0) | 0 ( 0) | 0 ( 0) | | | 0 |
| 保育所型認定こども園（公立） | 5 | 11(16) | ▲1 (15) | 1 (16) | 0 (16) | 0 (16) | | | 839 |
| 保育所型認定こども園（私立） | 0 | 1 ( 1) | 0 ( 1) | 0 ( 1) | 0 ( 1) | 0 ( 1) | | | 88 |
| 地方裁量型認定こども園（公立） | 0 | 0 ( 0) | 0 ( 0) | 0 ( 0) | 0 ( 0) | 0 ( 0) | | | 0 |
| 地方裁量型認定こども園（私立） | 0 | 0 ( 0) | 0 ( 0) | 0 ( 0) | 0 ( 0) | 0 ( 0) | | | 0 |
| 計（公立） | 8 | 18 (26) | 0 (26) | 1 (27) | 1 (28) | 1 (29) | | | 2,163 |
| 計（私立） | 1 | 3 ( 4) | 9 (13) | 3 (16) | 1 (17) | 0 (17) | | | 1,589 |
| 合計 | 9 | 21 (30) | 9 (39) | 4 (43) | 2 (45) | 1 (46) | | | 3,752 |

※（　　）内は累計数　　園児数：H28.4　次世代育成・青少年課調べ（人）

# 資料２　徳島県教育委員会　幼児教育研修一覧

【　主な研修　】

| | 事業・研修名 | 目　的 | 日　数<br>主な研修内容 | ＊対象<br>幼 | 保 | 保教 | 他校種 | 備　考 | 担当課 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 〔基本研修〕<br>幼稚園等新規採用教諭研修Ⅰ<br>4/4　未定　7/4 7/26～28 7/31<br>8/8　8/10　8/18　12/25 | 職務の遂行に必要な事項に関する研修を実施し，実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得られるようにする。 | 園内研修10日<br>園外研修10日 | ○必<br>●希 | | ○必<br>●希 | ○必 | ＊教諭・保育教諭として新たに採用された者を対象とする。<br>＊特別支援学校幼稚部教員も対象となる。 | 学校教育課 |
| 2 | 〔基本研修〕<br>幼稚園等新規採用教諭研修Ⅱ<br>第1回：4/25　5/2<br>第2回：12/8　12/15 | 職務の遂行に必要な事項に関する研修を実施し，実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得られるようにする。 | 年間３日（複数回設定）<br>①講義・演習<br>②保育参観・協議<br>③講義・演習 | ○必<br>●希 | | ○必<br>●希 | | ＊教諭・保育教諭として採用された者の内，保育士としての勤務経験を有する者を対象とする。 | 学校教育課<br>次世代育成・　青少年課 |
| 3 | 〔基本研修〕<br>幼稚園教諭10年経験者研修<br>共通：4/5　8/8　8/16　1/4<br>保育専門研修：7/21　8/1　8/8　8/10 | 幼稚園教育の課題解決に向けた研修及び学級経営・指導力向上に関する研修を行い，資質の向上を図る。 | 課業期間中研修10日<br>（所属園）<br>休業期間中研修8日 | ○必<br>●希 | | ○必<br>●希 | ○必 | ＊教職９年を終了した教諭・保育教諭を対象とする。 | 学校教育課 |
| 4 | 〔推薦研修〕<br>徳島県幼稚園教育課程研究協議会<br>8/9<br>（自主勉強会3回実施予定） | 幼稚園教育課程の編制及び実施に伴う指導上の諸問題について協議し，教員の指導力を高め，幼稚園教育の改善・充実を図る。 | １日<br>○講演<br>○研究発表・研究協議<br>＊教育課程の編成及び実施に伴う指導上の諸課題についての内容 | ○割<br>●割 | ○希<br>●希 | ○割<br>●希 | ○希 | ＊研究課題作成に係る自主勉強会を実施する。<br>＊講演会は参加自由にする。 | 学校教育課 |
| 5 | 〔推薦研修〕<br>保育技術協議会<br>8/2 | 幼児一人一人を理解し，その発達や特性に応じた保育を進めるとともに，保護者との対応に必要なカウンセリングマインド等，保育の専門技術を身に付けられるようにする。 | ２日<br>○講義・演習<br>○実技講習<br>＊具体的な保育技術を中心とした内容 | ○割<br>●割 | ○希<br>●希 | ○割<br>●希 | ○希 | ＊原則として，採用10年目までの者を対象とし，より実践的な保育技術についての研修を実施する。 | 学校教育課 |
| 6 | 〔推薦研修〕<br>幼稚園マネジメント研修<br>8/7　8/21 | 幼稚園教育要領・幼保連携型認定の理解推進を促し，幼稚園中堅教員の資質や指導力の向上を図る。 | ２日<br>①講義・演習<br>②講義・演習<br>＊園全体のマネジメントにかかわる内容 | ○割<br>●割 | ○希<br>●希 | ○割<br>●希 | ○希 | ＊管理職，中堅職員を対象とし，園全体のマネジメントにかかわる研修を実施する。 | 学校教育課 |
| 7 | 〔職務研修〕<br>幼稚園長等運営管理協議会<br>（5/16公立幼・幼こ　のみ）<br>6/15 | 幼稚園の教育内容・指導方法及び運営・管理に関する専門的な講義や研究協議を行い，園長等の見識を高め，指導力の向上を図ります。 | １．５日<br>①講演<br>②保育参観・協議　講義 | ○必<br>●希 | ○希<br>●希 | ○必<br>●希 | | ＊新任幼稚園長・幼保連携型認定こども園長を対象とする。<br>＊第２回は各施設園長・所長の参加希望も受け入れる。 | 学校教育課 |
| 8 | 〔職務研修〕<br>学力向上推進員研修会<br>6/8（板野）6/6（阿南）1/5 | 現在求められている学力についての説明や学力向上のための実践的取組や発表等を通して園内研修の充実及び指導方法の改善に資することを目的とする。 | ２日<br>①説明・講義・演習<br>②実践報告・協議 | ○必 | | ○必 | ○希 | ＊「学校」としての位置付けをもつ施設は，学力向上推進員を置き，学力向上実行プランを作成し提出する。<br>＊希望参加：視覚聴覚支援学校幼稚部 | 学校教育課 |
| 9 | 〔職務研修〕<br>特別支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ研修<br>－１年目－<br>第１回　5/26 又は 6/6<br>第２回　6/29 又は 7/8 | 特別支援教育推進の中心的役割を果たす特別支援教育コーディネーターの資質向上を図る。 | ２日<br>①講義・演習<br>②講義・演習<br>＊気になる子どもの理解と支援や指導計画に関する内容 | ○必<br>●希 | ○希<br>●希 | ○必<br>●希 | | ＊公立の「学校」としての位置付けをもつ施設は，特別支援コーディネーターを置き，研修に参加する。 | 特別支援・相談課 |
| | 〔職務研修〕<br>特別支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ研修<br>－２年目－<br>第１回　7/26<br>第２回　1/6 | | ２日<br>①講義・演習<br>②講義・演習<br>＊関係機関との連携やｿｰｼｬﾙｽｷﾙﾄﾚｰﾆﾝｸ等に関する内容 | ○必<br>（●希） | | ○必 | | | 特別支援・相談課 |
| | 〔職務研修〕<br>特別支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ研修<br>－３～５年目－<br>4日のうち1日を選択<br>7/21　8/9　8/17　8/22 | | １日<br>①講義・演習<br>②講義・演習<br>＊個別の教育支援計画等に関する内容 | ○必<br>（●希） | | ○必 | | | 特別支援・相談課 |
| 10 | 〔特別研修〕<br>あわ人権講座<br>（校種別実践力向上講座）<br>7/22 | 各学校における人権教育を充実・推進するため，人権意識の高揚を図り，人権及び人権問題に関する理解・認識を深め，人権教育の指導力を高める。 | １日<br>○講義・演習<br>＊確かな人権教育の推進方法や指導方法 | ○必 | | ○必 | | ＊教職８年目の者を対象とする。 | 人権教育課 |
| 11 | 〔希望研修〕 | 総合教育センターの実施する希望研修（公立幼稚園・幼保こども園に講座要項を配付，希望申込み） | | ○希 | | ○希 | | | 各担当課<br>（主：教職員研修課） |
| 12 | 〔大学・研究機関等研修〕 | 総合教育センターの実施する希望研修（公立幼稚園・公立幼保連携型認定こども園に講座を配付，希望申込み） | | ○希<br>●希 | ○希<br>●希 | ○希<br>●希 | | 参加可能な講座のみ、 | 各実施機関<br>（主：学校経営 支援課） |

※（幼）幼稚園教諭　（保）保育士　（保教）保育教諭　　※○公立　●私立　　※（必）必須参加　（割）割当参加　　（希）希望参加

## 資料３　「徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ」の進捗状況
（本調査研究に関連する事項）

〔徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ〕

### 【基本方針２】保育者の資質・向上

○徳島県教育委員会実施研修〈県主催〉（内容・講師・参加者数）　(H28 年度実績)

| | 研修会名 | 受講者数 | 内訳（人） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 国公幼 | 私幼 | 公こ | 私こ | 保 |
| 基本研修 | 幼稚園等新規採用教諭研修Ⅰ 外10日内10日 | ４４人 | ２８ | １ | ３ | ５ | ７ |
| | 幼稚園等新規採用教諭研修Ⅱ　３日 | １９人 | １５ | | ４ | | |
| | 幼稚園教諭10年経験者研修　８日 | ３６人 | ３５ | １ | | | |
| 職務研修 | 幼稚園長等運営管理協議会　1.5日 | ９１人 | ７５ | ３ | ７ | ５ | １ |
| | 特別支援教育コーディネーター研修（１年目） | ８７人 | ６５ | ２ | ０ | ６ | １４ |
| | 〃　（２年目） | １８人 | １８ | | | | |
| | 〃　（３～５年目） | ３４人 | ３４ | | | | |
| | 徳島県学力向上推進員研修会　半日（２回） | 延べ238人 | ２２２ | | １４ | | |
| 推薦研修 | 徳島県幼稚園教育課程研究協議会　１日（半日参加） | １２２人 | ９９ | １９（２） | ３ | １（１１） | ０（３） |
| | 幼稚園等マネジメント研修会　２日 | 延べ５８人 | ４４ | ３ | ６ | １ | ４ |
| | 保育技術協議会　１日 | ３５人 | ２０ | ２ | ２ | ６ | ５ |
| 特別研修 | “あわ”じんけん講座(校種別実践力向上講座) １日 | １３人 | １３ | | ０ | | |
| 希望研修・大学研究機関等研修 | 「絵本とその読み聞かせで学力をつけ，いじめを防ぐ」 | ３人 | ３ | ０ | ０ | ０ | ０ |
| | 「徳島県農業の現状と園芸作物栽培等の実際」 | １人 | ０ | ０ | ０ | １ | ０ |
| | 「乳幼児から児童期までの子どもの心理発達」 | １１人 | １ | | ０ | ６ | ４ |
| | 「実験で見る：南海トラフ巨大地震で電柱・薬品棚・本棚・ブロック塀の倒れる方向と倒れない方向」 | ８人 | ０ | １ | ０ | ５ | ２ |
| | 「幼児の心理と教育方法」　（大学） | １８人 | １ | ０ | １ | １０ | ６ |

※ 平成２７年度より，保育教諭を主たる受講者とした新規採用教諭研修Ⅱを開講した。
※ 平成２７年度より，保育所・認定こども園からの希望参加数を拡大した。

○保育事業連合会実施研修〈徳島県保育事業連合会の主催研修〉　(H28 年度実績)

| | 研　修　名 | 研　修　テ　ー　マ | 参加人数 |
|---|---|---|---|
| | 夏季大学　２回 | 「絵画における子ども理解」 | １５９人 |
| | | 「幼少期は人生で一番心の動く時期」 | １７５人 |
| | 研究発表大会 | 「今，保育の場で問う　－生きる力を取り戻す営みを－」 | ２１３人 |
| | 研修会 | 「宮城県で起こった震災を生かして，今後の防災・震災を考える」 | １０３人 |
| 現任保育士研修（委託事業） | 保育所リーダー研修　２回 | 「リーダーに求められる資質とは保育現場における人材育成」 | ８１人 |
| | | 「保育士の心と身体の健康のために」 | ７０人 |
| | 中堅保育士　２回 | 「乳幼児期の特性と幼保連携型認定こども園における教育及び保育の役割」 | １２７人 |
| | | 「共感をキーワードに考える子どもの発達」 | １１５人 |
| | 新任保育士　２回 | 「子どもの心を育む保育（保育課程含む）」 | １０５人 |
| | | 「一人ひとりを大切に育てられるために」 | １０１人 |
| | | 「リトミック（実技研修含む）」 | |
| | 特別支援 | 「一人一人の可能性を伸ばすための支援－明日からできることを考える－」 | １０８人 |
| | 乳幼児担当者 | 「０・１・２歳児の保育　－人との関係性を通して－」 | １３５人 |
| | 健康及び安全研修 | 「熊本地震の教訓を踏まえ科学的知見で防災を考える」 | ９５人 |
| | 保護者支援 | 「保育所等における保護者支援」 | ９４人 |
| | 食育・アレルギー | 「夏期職員相互研さんセミナー」 | １０３人 |
| | 子育て支援担当者 | 「親と保育士のほどよい関係を創るために－保護者の理解と支援－」 | ８７人 |
| | 給食担当者 | 「保育所給食における食物アレルギー対応について～食物アレルギーの基礎から緊急時対応まで～」 | １５３人 |
| | | 「いざに備えた防災食育～自助に向けた取り組みについて～」 | |

※ 幼稚園からの希望参加数を拡大した。

〔徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ〕

**【基本方針３】発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の推進**

**重点目標(1)　小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながる観点からの幼児教育の充実**

**重点目標(2)　小学校との連携・接続の推進**

**【県の取組】**

○保・幼・小連携に関する研修の実施

○幼小中連携推進事業「『学びのかけ橋』プロジェクト」(再掲)

・県教育委員会指定「幼小中連携推進事業『学びのかけ橋』プロジェクト」

平成22･23年度　実施市町村：鳴門市

平成24･25年度　実施市町村：藍住町（※国研教育課程研究指定校事業「幼小接続」を兼ねる）

平成26･27年度　実施市町村：北島町　東みよし町

平成28年度　　実施市町村：東みよし町　阿南市椿町

**【設置者の取組】【各施設の取組】**

○幼小連携の状況

・小学校との連携の実施状況　　H29.2 学校教育課調べ

| | 公立幼稚園数(実施率) | 公立幼保連携こども園数(実施率) |
|---|---|---|
| 実施している | １１７園（100%） | １１園（100%） |

※公立幼稚園・幼保連携型認定こども園が回答

・教師間の交流状況（複数回答）H29.2 学校教育課調べ

| | 公立幼稚園数(実施率) | 公立幼保連携こども園数(実施率) |
|---|---|---|
| ①保育・授業参観，授業研究会（市町村内含） | ８９園 (76%) | ８園 (73%) |
| ②合同の会議や研修会 | １０２園 (87%) | ４園 (36%) |
| ③情報交換 | １１３園 (97%) | １０園 (91%) |
| ④小学校入学に当たっての担当者会議等 | １１２園 (96%) | １１園(100%) |

・小学校児童と園児の交流状況（複数回答）

| | | |
|---|---|---|
| ①合同行事等 | １１５園 (98%) | ７園 (64%) |
| ②園庭・校庭の相互開放 | ８１園 (69%) | ５園 (45%) |
| ②情報交換 | ８４園 (72%) | ７園 (64%) |
| ④保育・授業への相互参加 | １０９園 (93%) | ８園 (73%) |

・小学校と園の保護者間の交流状況（複数回答）

| | | |
|---|---|---|
| ①合同行事の際の交流 | ９７園 (83%) | ６園 (55%) |
| ②合同の保護者会・講演会・シンポジウム等 | ７５園 (64%) | １園　(9%) |
| ③情報交換 | ７０園 (60%) | ３園 (27%) |
| ④ＰＴＡ活動 | ９５園 (81%) | ３園 (27%) |

**重点目標(3)　幼稚園・保育所・認定こども園等の連携の促進**

**【設置者の取組】**

○保幼人事交流・合同研修の状況

・市町村における人事交流の状況　　H29.2 学校教育課調べ

| | 市町数 |
|---|---|
| 幼稚園教員と保育所保育士の人事交流を実施している。 | １１市町 |
| 幼稚園教員と保育所保育士の人事交流を実施していない。 | ６市町 |

※幼稚園及び保育所を設置している16市町が回答

・人事交流を実施している場合の平成27年度における対象人数　　H29.2 学校教育課調べ

| | ０名 | １名 | ２名 | ３名 | ４名 | ５名 | ６名 | ７名 | ８名 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 幼稚園教員が保育所へ（市町） | １７ | ２ | １ | １ | １ | １ | ０ | ０ | ０ |
| 保育所保育士が幼稚園へ（市町） | １５ | ４ | １ | ０ | １ | １ | ０ | １ | ０ |

※人事交流を実施している8市町が回答

・市町（教育委員会・首長部局）が主催する合同研修の実施状況　H29.2 学校教育課調べ

| | 市町数 |
|---|---|
| 幼稚園教員と保育所保育士の合同研修を実施している。 | ７市町 |
| 幼稚園教員と保育所保育士の合同研修を実施していない。 | １０市町 |

※幼稚園及び保育所を設置している１７市町が回答

**【各施設の取組】**

〇保幼連携の状況

・公立幼稚園と保育所との連携の実施状況　H29.2 学校教育課調べ

| | 公立幼稚園数(実施率) |
|---|---|
| 実施している | １１１園（95%） |

・保育士と教員間の交流状況（複数回答）

| 交流内容 | 公立幼稚園数(実施率) |
|---|---|
| ①保育研究会等（市町村内含） | ９２園 (79%) |
| ②合同の会議や研修会 | ９１園 (78%) |
| ③情報交換 | ９７園 (83%) |
| ④幼稚園入園に当たっての担当者会議等 | ６９園 (59%) |

・保育所児と幼稚園児の交流状況（複数回答）

| | |
|---|---|
| ①合同行事等 | ６７園 (57%) |
| ②園庭の相互開放 | ３１園 (26%) |
| ③情報交換 | ５９園 (50%) |
| ④保育への相互参加 | ４９園 (42%) |

**〔徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ〕**

**【基本方針５】家庭や地域社会との連携の推進**

**重点目標（1）子育て支援活動の充実**

**【県の取組】**

〇家庭や地域の教育力向上のための支援

・研修及び講座　(H28年度実績)

| 研　修　・　講　座　名 | 参加者数 |
|---|---|
| 徳島県ＰＴＡ会長・指導者講習会 | ６００人 |
| 「とくしま親なびげーたー」養成講座　３日 | ３２人 |
| とくしま家庭教育フォーラム | ７００人 |

・ホームページによる情報の提供

http://syougai.tokushima-ec.ed.jp

・家庭や教育力向上のための資料の提供

・とくしま親なびプログラム集

・徳島子ども読書ネットワークホームページ

・「とくしまの子どものためのブックリスト１００プラス！」

・「とくしまの赤ちゃんのためのぶっくりすとJUST １００！」

**【設置者の取組】【各施設の取組】**

〇公立幼稚園等における子育て支援

・実施園数　H28.9 学校教育課調べ

| 実施している（割合） | 実施していない（割合） |
|---|---|
| １０１園 (86%) | １６園(14%) |

・実施内容　　H28.9 学校教育課調べ

| 実施内容 | 実施園数（実施率） | 実施内容 | 実施園数（実施率） |
|---|---|---|---|
| 子育て相談（教職員） | ９３園 (86%) | 子育て情報の提供（情報誌・紙） | ８６園 (80%) |
| 子育て相談（外部人材） | ４０園 (37%) | 子育て情報の提供（インターネット） | １３園 (12%) |
| 子育て井戸端会議 | ３５園 (%) | 子育て講座・講演会（教職員） | １３園 (12%) |
| 未就園児の保育 | ６２園 (32%) | 子育て講座・講演会（外部人材） | ６９園 (64%) |
| 園庭・園舎の開放 | ８０園 (74%) | 保護者の保育参加 | ９３園 (86%) |
| 子育てサークル等支援 | ９園 (8%) | 父親に重点をおいた保育参加 | ６園 (6%) |

※預かり保育実施幼稚園１０１園が回答（複数回答）

## 重点目標（1）子育て支援活動の充実

**【県の取組】**

○地域ぐるみで家庭教育を支援する基盤形成

・文部科学省補助事業「ほのぼの家庭教育づくりプログラム事業」

平成25年度　「子どもとふれあう孫育て講座」（家庭教育学習機会の提供）
「父親力ルネサンス推進講座」（父親の家庭教育・地域教育参画推進）
「高校生による子ども・家庭教育支援アクション」
（高校生と乳幼児・小学生の交流機会提供）

平成26年度　「子どもとふれあう孫育て講座」（家庭教育学習機会の提供）
「父親力ルネサンス推進講座」（父親の家庭教育・地域教育参画推進）
「高校生による子ども・家庭教育支援アクション」
（高校生と乳幼児・小学生の交流機会提供）

平成27年度　「子どもとふれあう孫育て講座」（家庭教育学習機会の提供）
「父親力ルネサンス推進講座」（父親の家庭教育・地域教育参画推進）
「高校生による子ども・家庭教育支援アクション」
（高校生と乳幼児・小学生の交流機会提供）

平成28年度　「孫育て楽しみ隊講座」（家庭教育学習機会の提供）
「父親力ルネサンス推進講座」（父親の家庭教育・地域教育参画推進）
「高校生による子ども・家庭教育支援アクション」
（高校生と乳幼児・小学生の交流機会提供）

○徳島県生涯学習指導者情報システム「まなびひろば」の活用促進
http://syougai.tokushima-ec.ed.jp

## 資料４　訪問記録

### 幼稚園の訪問記録①

| | | |
|---|---|---|
| ○○市・町○○○園 | 平成２８年　　月　　日　　曜日　　天気 | |
| 訪問者氏名 | | 園長名：<br>幼児数：人学級数：学級 |

**①幼稚園教育要領等に基づいた教育**

・６月初旬という時期や子どもの実態にあった遊びの環境構成がなされ，それぞれの子どもたちが自主的に好きな遊びに取り組む姿が見られた。また，異年齢でのかかわりの姿も見られた。

・子どもたち自ら挨拶ができ，それぞれの子どもが目的をもって遊びに取り組んでいた。自分の取り組んでいる遊びについて言葉で説明したり，疑問に思うことを聞いたりなど自分の思いを言葉で表現でき，人とのかかわりがしっかりとできていた。

・戸外遊びの片付けの後，うんていやタイヤ飛びなど，それぞれの年齢に合わせ子どもたちが体を動かす時間を確保したり，３歳児がリズム室でリトミックを楽しんだりと，しなやかな体作りに取り組んでいる。

**②教育課程の編成・指導計画の作成と保育の展開**

・２７年度より３年保育が実施され，教育課程には３歳児・４歳児・５歳児の３年間の幼児の発達を見通した教育課程が系統的に編成されており，それに基づいた保育が展開されていた。

・それぞれの学級の指導案には，「学級の幼児の姿と教師の願い」をはじめ，「保育のねらい・内容」「予想される幼児の活動」とそれに対する「教師の援助とかかわり」が，また，全体の環境図には「予想される幼児の活動と環境構成」がきめ細やかにかつ具体的にしっかりと書き込まれており，子どもたちの主体性を大切にした保育や教師のかかわりがなされていた。

**③教師とのかかわりと環境の構成**

・園庭には，樹木・草花・菜園・池・うさぎ小屋・築山などがほどよく配置され，子どもたちが五感で自然を感じながらのびのびと自分の好きな遊びに取り組めるよりよい環境がなされていた。園舎内外ともに清掃･整理整頓が行き届くとともに，玄関，環境板，階段等，要所要所に花や飼育物･絵画などの環境があり，子どもたちがほっとでき，心が安定する環境の配慮ができていた。

・教師一人一人が子どもの内面理解に努め，落ち着いて対応し，子どもに寄り添った言葉がけなどのかかわりができていた。集団行動がとりにくい子どもに対しては，温かく見守り，言葉をかけ，誘い，集団の中に入れていた。

・園長先生をはじめ，教師同士の連携がよくとれており，子どもたちを全職員で育てていこうとする姿勢が見られた。

**④発達や学びの連続性を踏まえた教育**

・年長児は，年数回小学校に招かれ，一緒に遊んだり，給食を食べさせてもらったりなど小学校生活を体験している。このことは，小学校での学習や生活の様子がよくわかり，小学校への期待感や安心感につながると思う。また，このような機会を通し，幼・小の教師のかかわりが深まり，幼児・児童の発達の理解や互いの教育課程の理解につながることを期待する。

・小学校への接続について教育課程の中にどのように書き表していくのか，今後検討しながら教育課程を見直していく予定である。

⑤園運営

・「心身ともに健やかで，意欲的に自己を創造していく幼児を育てる」ことを教育目標に掲げ，明るく元気な子・やさしく思いやりのある子ども・自分で考え，たくましく行動する子をめざし取り組んでいた。

・地域の方との連携もとれており，地域の方のご協力により，タマネギ・じゃがいも・ニンジンなどの野菜の栽培活動に取り組み，訪問時には野菜が収穫されていた。今後，収穫した野菜を活用したカレー作りを予定しているとのことだった。このように，一つ一つの活動を，そしてご協力いただいたことをつなげながら保育に活かしていくことは大切であると考える。

・園長先生より，保護者が安心して来られる幼稚園，保護者同士，子ども同士のつながりがもてる幼稚園，子どもや保護者支援ができる幼稚園運営をしていきたいとお聞きした。園・家庭・地域・小学校等，様々な関係諸機関との互恵性のある連携を望む。

| | |
|---|---|
| 公開保育<br>及び<br>保育研究会 | ・園庭のスケーターや自転車の遊具を使った遊びの中で，子ども同士が衝突する危険性が見られた。子どもの動線について職員間で見直し，その都度考え，安全面への配慮をしていくことが必要である。<br>・クラス活動を含む集団生活に参加できにくい子どもへの対応として，参加できにくい理由は一人一人の気持ちや考えを把握しておくことが大切である。内面理解による適切な援助をしながら活動に参加できるよう努め，友達と一緒に活動する楽しさや，活動内容の楽しさが味わえるようにすることが次の活動への意欲につながる。<br>・教師は，３年保育を実施していく中で，担任だけでなく全ての教師が３歳児から５歳児までの成長発達の姿を把握し，理解して保育に取り組み，発達をつなげていくことが大切である。 |
| 全体会 | ・**質問 1**「小学校への接続期における教育課程のわかりやすい様式と，加えたらよいと思われる小学校からの視点について」…〇〇幼・小の接続カリキュラムおよび，〇〇幼稚園の５歳児の幼稚園の接続期の週案を資料として説明および助言。（指導主事より）<br>・**質問 2**「幼児自らが遊びを創り出していけるような環境構成をしていくためには」…幼児の内面理解に努め 発達段階や興味関心にあった環境構成を考えていくことが重要。県アクションプラン・幼児教育じほうより助言 |
| 所見 | ・施設から登園している子どももおり，少し落ち着かない姿も見られたが，園全体が落ち着いた雰囲気で，子どもたちが安定して元気にのびのびと生活できていた。教師の話す声の大きさ，話し方などが適切で，教師からの指示は多くないが，片付けなどは教師とともにそれぞれの場の片付けが自然と子どもたちの手でなされていた。クラス活動時に，全体を見渡し個々に言葉かけが必要な子どもの姿も見られた。必要に応じ，指導・援助ができるよう一人一人の言動を把握することが必要だと思う。 |
| 特色ある取組 | ・地域とのつながりが強く，野菜の飼育栽培活動においてご協力をいただいている。<br>・地域のＰＴＡ主催による，各校種訪問の親睦を図るための行事が年数回実施されている。 |

## 幼稚園の訪問記録②

| ○○市・町○○○園 | | 平成２８年月日曜日天気 |
|---|---|---|
| 訪問者氏名 | | 園長名：<br>幼児数：人学級数：学級 |

**①幼稚園教育要領等に基づいた教育**

・登園後, 全幼児で朝の体操をした後, 年少児も年長児も一緒になって園庭で自分が選んだ遊び（６つの遊び）にそれぞれが没頭して一生懸命に取り組んでいた。例えば砂場では，共通のイメージに向かって各自が思いや考えを出し合いながら遊びが深まっており，日頃の教師の姿勢が伺え充実した遊びが展開されていた。

・後半の各学級での活動の時間（課題別保育の時間）では，５学級それぞれが発達段階にそった題材で取り組んでいた。例えば，年長児のオセロゲームではルールを守って遊ぶことの大切さに気付かせ，オセロの多い少ないを比較するとき，縦や横に重ねたり並べたりして，どちらのチームが勝ったかを判定していた。このように数量や数の概念を遊びを通して理解させる等，小学校教育における学習の基礎となるような配慮をされていることを感じた。

**②教育課程の編成・指導計画の作成と保育の展開**

・各学級の指導案には，月・週のねらいを受け，本時の指導計画が立てられ，特に言葉の領域のねらいについては全学級とも「ことばで伝え合う力を育む」ためにきめ細かに指導案が立案されていた。

・園が作成する教育課程, 年間指導計画, 人権教育年間計画, 預かり保育の年間指導計画, 要覧等多岐にわたって綿密に作成され，きめ細かな保育が展開されていた。

**③教師とのかかわりと環境の構成**

・園庭や室内には，季節感を味わう草花や野菜が植えられ，幼児の気づきや学びの場が適切に構成されていた。

・「砂・土で遊ぶ」「色水遊び」などすべての遊びの場では，教師も幼児の遊びに加わり，必要に応じて仲立ちをし，共同作業者として役割を果たすなどして遊びが深まるように配慮していた。

**④発達や学びの連続性を踏まえた教育**

・小学校以降の教育に期待がもてるよう幼小接続カリキュラムを作成し，幼小の連携が日常的に進められ実践されている。また，日々の保育の中でも，言葉や数等を意図的・計画的に取り入れ,「遊びの中の学び」を意識した保育を実践していた。

**⑤園運営**

・「未来へつなぐ幼児教育の創造」達成のため, 本年度は「言葉で伝え合う」ことを重点的に取り組んでいる。

・今年度「『長期的な発達を見通した指導計画の改善』～言葉で伝え合う力を育むために～」をテーマに取り組み，保育所から中学校までの１５年間を見通した連携をする中で，幼児や社会の変化に対応した幼稚園教育の充実を図っている。

・地域の幼児教育のセンターとしての子育て支援を推進したり，保育に地域の行事を取り入れたり地域との連携を進めている。

| | | |
|---|---|---|
| | ねらい | ○自分の思いを言葉や動きで表しながら, 友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。（４歳児）<br>○身近な素材を使って作ったり遊んだりすることを楽しむ。　（４歳児） |

<table>
<tr><td rowspan="2">保　　育<br><br>或いは<br><br>保育研究会等</td><td>指導内容</td><td>○友達と思いを伝えながら遊びを進めて行くことを楽しむ。（５歳児）<br>○身近な自然にふれ，工夫したり試したりして遊ぶ。（５歳児）<br>○指導案については，幼児の発達段階に応じ，しかも教師との信頼案系が築かれているため，一人一人の生活のエピソードが的確に捉えられており，幼児に寄り添った指導案が作成されていた。</td></tr>
<tr><td>質問事項<br><br>協議事項<br><br>指導助言</td><td>○言葉で伝え合う力を育むための教師のかかわり方について<br>○年度当初に立てた指導計画の見直しをするための留意点について<br>○本日の公開保育についての各担任からの補足説明とそれについて協議をした。<br>○本園の研究テーマ「言葉で伝え合う力を育むための教師の援助の在り方」について協議をした。<br>○言葉で伝え合う力を育むためには，教師と幼児が温かい人間関係を築き，遊びや生活の中でもっと言葉を使いたいと思えるような環境作りや教師が美しい言葉を使う等，積極的に言葉に関する環境を構成する必要があることを話した。</td></tr>
<tr><td>全体会</td><td colspan="2">○「幼児教育振興アクションⅡ」について趣旨説明があった。</td></tr>
<tr><td>所見</td><td colspan="2">○自分の選んだ遊び（「色水遊び」「砂で遊ぶ」等）の活動では，自分たちで目的をもち，助け合い楽しみながら共同して取り組み，一人一人が自分の力を十分に発揮して安定して遊び込んでいた。各学級ごとの活動では，発達段階に応じた環境構成がなされ，幼児は自分のイメージを膨らませながら工夫したり試したりして遊んでいた。<br>○教師一人一人がテーマにそって学級経営をされ，教師間でお互いに情報を共有し，計画・実践していることから確実に保育の質の向上につながっていると感じた。</td></tr>
<tr><td>特色ある取組</td><td colspan="2">○小学校と「人とかかわる中で，聞く・話す・考えることばの力を育成する幼小接続カリキュラム」を作成し，交流を定期的に行っている。<br>○「○○○○○の会」の方による絵本の読み聞かせ，ＡＬＴによる「英語で遊ぼう」の実施。</td></tr>
</table>

## 幼保連携型認定こども園（０～２歳を中心に）の訪問記録①

<table>
<tr><td colspan="2">○○市・町○○○園</td><td colspan="2">平成２８年　　月　　日　　曜日　　天気</td></tr>
<tr><td>訪問者氏名</td><td></td><td colspan="2">園長名：<br>子供の数：　　人　　クラス数：</td></tr>
<tr><td colspan="4">①保育所保育指針等に基づいた保育<br>・一人一人の発達段階や興味に寄り添い，適切な見守りや援助を通した保育がなされていた。<br>・ゆったりとした雰囲気の中で，施設環境を工夫し，地域の自然物を取り入れるなど，豊かな体験ができていた。</td></tr>
<tr><td colspan="4">②保育課程の編成・計画の作成と保育の展開<br>・きちんと整備された保育課程・計画のもと，きめ細かい本日の指導案が作成されていた。本日は年長児の発案によるおまつりへの招待ということで，幼児部のこどもたちは，年長児との自然な交流の場となっていた。園庭や室内での活動もじっくりと取り組めていた。</td></tr>
<tr><td colspan="4">③保育者とのかかわりと環境の構成<br>・言葉で伝えることが難しいこどもたち一人一人をよく理解し，声をかけたりなど適切な援助がなされていた。<br>・保育者のゆったりとしたかまえが，こどもたちが安心して遊べる雰囲気をつくっていた。また年令に合った遊具や教材を準備し，子ども自らが遊びを選べるように環境整備ができていた。安心して見させてもらえた。</td></tr>
<tr><td colspan="4">④発達や学びの連続性を踏まえた保育<br>・給食では０才児は月令に合った介助や言葉かけができていた。１才児は準備ができるまで待つことができ，あいさつをしてから食事をはじめることができていた。２才児では，箸を使っているこどもが多く，発達に応じた対応がよくわかった。<br>・園全体の交流が自然になされていることから，上の年令のこどもたちから学んでいることが多いのではないかと思われる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">⑤所運営<br>・こども園２年目で，施設は保育園・幼稚園であったままでの運営をしているということをお聞きし，大変な作業であったのではないかと思う。保育課程等整備された中で，幼児部・保育部という形で運営をしているとのこと。意識して交流をはかっていることがこどもの姿に見えた。転員の意図的な配置を行い，保育園と幼稚園の理解を深めていることをお聞きし，しっかりとこども園が根づいていくことを感じた。</td></tr>
<tr><td>公開保育</td><td>ねらい<br>内容</td><td colspan="2">０才児<br>・ゆったりとした雰囲気のなかで保育者や友達と安心して過ごす。<br>・保育者や友達とふれあいながら遊ぶことを喜ぶ。<br>１才児<br>・簡単な身のまわりのことを自分でしようとする。<br>・好きな遊びを見つけ，保育者や友だちと一緒に遊びを楽しむ。<br>２才児<br>・簡単な身のまわりのことを自分でしようとする。<br>・保育者や友だちと一緒にどんぐりやまつぼっくりなど秋の自然物にふれて</td></tr>
</table>

| | | |
|---|---|---|
| | | 遊ぶことを楽しむ。<br>本日は園全体に広がった活動内容となっており，好感が持てた。 |
| 公開保育 | 質問事項<br><br><br>協議事項 | ・かみつきと保護者対応<br>・給食当番時に性器をさわることについて<br>・こどもの絵について<br>・今後の危機管理について |
| | 指導助言 | ・かみつきをやめさせるということは大変難しい。かみついたこどもへの配慮が必要である。保護者にはまずあやまること。保護者との信頼関係を築くこと。そのためにはこどもをだいじにすること。<br>・２才児はちんちんに興味を持つ時期でありあたりまえのことである。原因がどこにあるのかを見極め，その子に手をかけてあげたり，時には保護者と話し合ってもよい。<br>・子どもの絵は「ことばである」とも言われている。自由に描かせてあげるのがよい。その子の心の状態や発達段階，興味などを理解するための絵である。「これなにかいたの」などたずねない方がよい。教えてくれる時はきくこと。 |
| 所　　見 | 天候に恵まれた中で，園児たちが落ち着いた雰囲気の中でこども園が一体となった保育が展開されていた。年長児は小学校との連携の中で経験したことを年少児たちにもおまつりにきてもらい，楽しんでもらいたいと，保育部のこどもたちを招待しあたたかい交流がなされていた。園庭や保育室でも自然なふれ合いの中で育ち合っていることがわかった。全体的に保育者の見守りや援助を通してじっくり遊んでいる姿に日頃の先生方の保育に対する一貫性が感じられた。おみこしをみて，地域の中で子どもたちが育っていることも感じた。園長先生・副園長先生のすばらしい指導力のもと着実にこども園が定着することと思います。私自身学ばせてもらうことが多々ありました。ありがとうございました。 | |

## 幼保連携型認定こども園（０～２歳を中心に）の訪問記録②

| ○○市・町○○○園 | | 平成２８年　　月　　日　　曜日　　天気 |
|---|---|---|
| 訪問者氏名 | | 園長名：<br>子供の数：　　人　　クラス数： |

①保育所保育指針等に基づいた保育

乳幼児期は，大人への依存を基盤に自立に向かう時期であり，０～２才児クラスでは，保育教諭に生命を守られ，愛され，情緒が安定して保育教諭への信頼が育っていた。その安定感の中で，遊びを通して自然を身近に感じさせながら仲間の存在にも気付かせる保育が行われていた。この実践は保育所保育指針に基づいた保育実践であった。

②保育課程の編成・計画の作成と保育の展開

○○市町においては，一貫した教育・保育目標基本方針が確立されており，それを基盤にそれぞれの地域

の地域性や特性を保育課程の中に組み込まれていた。生きる力の基礎を育成するため園児一人一人の状況に応じた教育並びに保育が工夫されていた。

**③保育者とのかかわりと環境の構成**

園児は家庭を背負って園に来ています。家庭と園の生活の連続性を十分考慮されたアットホームなクラス運営がされていた。園児一人一人に細やかな心配りや言葉がけが実践され，その中で保育教諭の専門的な指導力で園生活を楽しみ，遊びを満喫し，一人一人が園の中に自分の居場所を確保し，安心した生活ができていた。

**④発達や学びの連続性を踏まえた保育**

０才児から５才児を一続きの成長の流れと捉え，発達年令に応じた保育教育が行われた。

**⑤所運営**

〇〇市町としての保育・教育の目標・基本方針が一貫されており，地域性（小学校，地域との連携）を活かした運営が成されている。また地域の高齢者や読み聞かせ等のボランティアによる地域力を活かした経営が園行事の中で実践されている。それらと共に地域の文化「やねこじき」や「阿波おどり」等に興味や関心を持たせ人間の文化の伝承につなげ等地域社会との連携を密にした園運営が成されていた。

| | | |
|---|---|---|
| 公開保育 | ねらい<br>内容 | ・保育教諭を仲立ちとした生活や遊びの中で，言葉のやりとりやルールのあるごっこ遊びを楽しむ。<br>・どんぐりや木の実，落ち葉などに触れたり，集めたり，散らせたりして秋の自然を体感する。<br>・いろいろな遊びを通して，友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 |
| | 質問事項<br>協議事項 | ・幼保連携型認定こども園での保育・教育の充実<br>・０～就学前までの一貫した保育・教育の特性「園児の発達の連続」を活かした保育内容 |
| | 指導助言 | ０～２才児の保育では，保育教諭が保護や援助を行い，園児が十分甘えたり欲求を受け止められながら，簡単なごっこ遊びを保育教諭が共にする中で秋の自然を身近に感じたり，自分や友達の存在に興味関心を抱く保育が実施されていた。この実践は就学前までの一続きの成長の流れを達成するための基礎と成りうる保育内容であった。保育を文字で語り伝えるということは，専門職である保育教諭の責務である。 |
| 所　　見 | 一貫した保育・教育の目標や基本方針が定められ，次世代を担う子ども達の健全な心身の発達を図りながら，子どもの生涯にわたる人間形成の基礎づくりの場が定着・始動している。より充実した子育て環境づくりのため就園している園児の年令層の広さや発達の個人差，入園児の年令の違い等による集団生活の経験年数の差，家庭環境等を把握し，園児一人一人の発達課題や特性を配慮した保育・教育の充実を図ってもらいたい。そのためには職員相互の資質の向上と専門性の向上に努めてほしい。特に未満児には，充分大人に甘えられる環境を保持しつつ，抵抗なく高年令児との活動が円滑につながる保育・教育の流れをつくりだしてほしい。 | |

## 資料５　訪問指導の記録の分析と考察

### ①幼稚園教育要領等に基づいた教育

**【特色・評価点】**

**＜ふさわしい生活の展開＞**

・自分なりの思いや課題をもって活動し，友達の刺激を受けてイメージを広げたり新たに工夫したりしながら安定して園生活を楽しんでいる。

・教師との信頼関係や，子供同士のつながりもでき，安心して伸び伸びと友達と一緒に目的をもって遊びに取り組んでいる。

・「こんなものができたよ。」「こんなことができるけん見よってよ。」と幼児が自信をもって遊び込む姿が見られる。

**＜異年齢交流の意義＞**

・５歳児は４歳児の手本となり，遊びをリードしていくことを楽しみ，４歳児も５歳児から刺激を受け，根気強く一緒に頑張ることを楽しむ姿が見られる。

・同じ遊びを重ねることによって技術の習得や発見，工夫などが見られるようになっている。色水遊びでは始めた時はあらゆる草花を混ぜ，濁った色水を作っていたが，繰り返すことで綺麗な色や水や草花の量による濃さなどを考えながら遊んでいる。

・異年齢交流や多様な経験をとおし，年下の子へのかかわり方や友達と考えを伝え合いながら遊びを進めたり，協力したりすることを学びながら遊ぶ姿か見られる。

**＜教師の適切な援助＞**

・広い自然環境の中で気の合う友達とゆったりと図鑑で確かめながら虫取りをしたり，ままごと小屋で自然物を使ってごっこ遊びをしたりなど，幼児たちの思いを大切にしている。

・教師は園児の願いや発想を実に大切にしている。園児の活動に次々と発想の広がりが生まれ，保育者もそれを認めたり，友達に紹介したりすることで，より一層活動の幅が広がっている。

・無理に遊びに引っ張るのではなく幼児が見ているものをともに見，感じていることをともに感じようとしている。教師の姿に別の幼児も引きつけられ，言葉はないがつながりのある空気感が生まれている。

**【課題点】**

**＜教師の意図性に関する課題＞**

・保育者がねらいを明確にもち，適切な援助を想定していない。

・教師主導の学級活動で，担任と子供たちとのイメージの違いが見られる。

・学級での活動では様々な素材や表現方法を体験できる内容であったが，与えられた「課題」をこなしていく時間となっている。作品作りに主眼が置かれ，活動の中で一人一人の幼児に何を育てるかが明確になっていないため，幼児も「課題」として取り組み，活動や作品に思い入れがみられない。

**＜環境構成に関する課題＞**

・年長の男子が，あり余る元気を発散できる環境構成に苦慮している。

・狭い空間のため，ダンスの曲が流れると周りの活動に影響し，自分たちの活動に落ち着いて遊び込めるか疑問である。

・朝の集まりをしてから全員で園庭に出ていたが，遊びが盛り上がってきた頃に片付け時間になってしまう。遊び出すことのできる環境になっていなかったことも影響している。

**【指導助言・改善点】**

・幼児に何が育っているかを考え，園の生活を見直してほしい。

・教師は活動の中に織り込む意図を明確にしてほしい。

・教材研究を行うこと，環境や活動の意味を常に意識してほしい。

・教師と園児の関係性や園の雰囲気を大切にしながら「主体性を促す」「遊びを通して総合的な指導」を意識してほしい。

・遊びを通してねらいが総合的に達成されるよう園児が体験していることを読み取り，保育を構想していく力を伸ばしてほしい。

・遊びが転々とする幼児の姿に課題があるので，興味をもったことに夢中で向かう子供の姿がほしい。

・一人一人の発達の課題に即した指導を行うためにも幼児の姿をていねいに読み取ってほしい。

・幼児自身が１日の生活に見通しをもち，主体となることのできる生活の流れを考えてほしい。

・遊び込めたり持続できたりする遊びへの環境構成や働きかけ方何をもって「遊び込んだ」「持続した」と評価するか，その規準を園内で共通理解しておくべきである。手立てとしては，「環境を残す工夫」，「環境まるごとを残せなくてもベースを残す」，ときには「保育者が変わる」こともできうる。

・言葉で伝え合う力を育む為には，教師と幼児が温かい人間関係を築き，遊びや生活の中でもっと言葉を使いたいと思えるような環境作りや教師が美しい言葉を使う等，積極的に言葉に関する環境を構成する必要がある。

・遊びを充実させ，話したいことがたくさんあるという状況になることが必要である。何でも話せる人間関係作り，学級経営が重要である。

## ②教育課程の編成・指導計画の作成と保育の展開

**【特色・評価点】**

**＜教育課程・カリキュラムマネジメント＞**

・園長・主任のリーダーシップのもと，遊びの読み取りと援助のふり返りを園内研修で積み重ねており，教育課程で発達の見通しをもち，今の幼児の姿から指導計画が検討されている。

・使用したもの・表現を貼る，表で整理する，記録画像を貼る等，多彩なポートフォリオがある。「指導と評価の一体化」「PDCAサイクル」が具現化している。

**＜幼児理解に基づく指導計画＞**

・日々の遊びにおける幼児の見取りが深く，幼児の興味・関心や育ちを基軸として「ねらい」「内容」が設定されている。

・幼児の実態がよく捉えられており，そこから教師の願いを教師間で共有して，保育計画を作成し，保育を展開している。

**＜長期の指導計画＞**

・期・月ごとの園児の成長を想定し，綿密な教育課程を作成している。

・園が作成する教育課程，年間指導計画，人権教育年間計画，預かり保育の年間指導計画，要覧等多岐にわたって綿密に作成され，きめ細かな保育が展開されている。

**＜短期の指導計画＞**

・期から週へそして本日のねらいへと子供の育ちの見通しをもちつつ，今の幼児の姿を基軸に指導計画を立て，実践しつつ，機を逃さずに評価・見直しを行い，改善を図る努力がなされている。

・教師の援助や環境構成が綴られ，園児の思いから成り立つ遊びを援助する教師の思いがよく整理されている。

**【課題点】**

**＜幼児の姿や教師の願いに関する課題＞**

・指導案「幼児の姿と教師の願い」の視点が定まっておらず，指導につながっていない。

・短期の指導計画である日案（指導案）は，幼児の姿の捉えが漠然としている。

**＜指導案の具体的内容に関する課題＞**

・教師が指導して経験すること・身に付けることとしての「内容」は少し具体性に欠ける。

・本日の「ねらい」が４歳児・５歳児の違いはあるが，４歳児・５歳児とともに各クラスが同じねらいであったり，５歳児３ クラスの学級活動が全く同じ製作だったりしたので，もう少し学級の実態に合わせた「ねらい」を考えたり，活動内容を考えたりすることが必要である。

**＜指導案作成上に関する課題＞**

・５歳児だけの１ 年保育で２ 学級編成であったが，合同での保育であったためか，指導案は１部であり，各学級の実態や教師の願い等の記述が不十分である。

・園庭で活動することを予想して作成されていたため，雨の場合の指導案を立てる必要もある。

・当日の指導計画については，表記の仕方が不十分であったり，具体的でなかったりという部分が見られる。

**＜短期・長期計画の関連性に関する課題＞**

・指導案に書かれている「期・週のねらい及び内容」と「本日のねらい及び内容」の関連性について，園児の実態と保育教諭の願い，評価の記述が不十分である。

・他園所の同年齢の幼児との豊かな交流体験が少なく，様々な行事を取り入れているため，幼児たちの主体的な遊びが途切れたり，同年齢仲間で試行錯誤しながらの遊びや経験が不足したりしがちなので少人数園における課題解決に向けての取り組みや行事の精選等が必要である。

**【指導助言・改善点】**

・指導案では，幼児の姿と指導の方向性を記載しているが，長期の指導計画のねらい・内容から幼児の発達を捉えていくことを考えてほしい。

・日案である指導案と，月の指導計画・期の指導計画との整合性を精査してほしい。

・発達の理解→指導計画の作成→実践と評価を繰り返し，計画を柔軟に修正しながら保育を展開してほしい。

・指導案の「見守る」とはどういうことか，保育場面における「見守る」の内実を明確にしたい。

・短期の指導計画である指導案では，4歳児と5歳児のねらいがそれぞれの発達に適したものになっているか，学級の活動においては，指導内容を明確にしてほしい。

・５領域や月のねらい・内容等の視点をもった幼児の実態の捉えと教師の指導の方向性を明確にすることで，幼児の育ちにつながる保育が展開できる。

・短期の指導計画である指導案においては，「内容」に，小学校との連携・接続を意識した「教師が指導して幼児が身に付けること・経験すること」を明確にすることで積極的な保育が展開される。

### ③教師とのかかわりと環境の構成

**【特色・評価点】**

**＜物的環境：自然・栽培物・飼育物など＞**

・伝統的に恵まれている施設設備や自然豊かな園庭は安全によく整備され，身近な自然にかかわって遊べる環境が計画的に構成されており，よく手入れされた栽培物や飼育物にも園児が自由に関わるなど，多様な体験の中で様々な発見や驚きが生まれている。

・梅雨の時期を楽しく生活できるように，幼児たちの好きな小動物が大切に飼育されていたり，園庭の野菜も逞しく生長していたりする。動植物に対する幼児たちのかかわりから，教師の細やかな心配りが幼児たちにも伝わりつつある。

**＜物的環境：屋外の空間・遊具など＞**

・木から吊した登り綱には，高さごとに目標を表すテープが貼られる等，園児自らが目標をもって取り組めるようにしている。

・木製遊具や総合遊具等さまざまな遊具が設置されると共に築山や粘土土も整備され，いろいろな遊びを楽しんだり，挑戦したりしながら，しなやかな体づくりができる環境である。

**＜物的環境：室内環境など＞**

・ごっこ遊びのコーナーには，幼児の興味関心や遊び方などに添った，教師手作りの本物そっくりの遊具（洗濯機・レンジなど）が備えられている。幼児の喜びや幸せを願っての愛情ある手作り環境が随所に見られる。

・地域の豊かな環境や秋の季節を感じられる教材を効果的に使用したり，幼児の家庭生活や数日間の園生活が感じ取ったりできる室内環境である。

**＜人的環境：教師の援助など＞**

・一人一人の教師が子供の内面理解に努めながら，子供の言動を認めた言葉や子供に寄り添った言葉をかけたり，知らせる，見守る，一緒にするなど適切なかかわりを心がけようとしたりしている姿勢が見られる。

・教師は一人一人をよく観察し，幼児の思いの実現のためじっくりとかかわり，一人で寂しそうな幼児を見逃さなかったり，その幼児をみんなの中で引き立つようにしたりするなど細やかで温かい配慮が見られる。

**【課題点】**

**＜環境構成の課題＞**

・幼児の姿をどう捉え，保育を展開していくか豊かな自然環境の中，思い思いに伸び伸びと活動する幼児の姿があるが，それぞれの遊びの中で幼児の姿をどう見取り，指導の方向性を考えていくかが次の課題である。

・保育室の窓ガラスを含めて全ての面に多くの掲示物が貼られ，雑然とした感じである。

・遊び等に使う素材や材料については既製品が多く置かれ，空箱や牛乳パック等園児がイメージをふくらませて製作するための環境構成の工夫がもっと必要である。

**＜教師の援助等に関する課題＞**

・自由遊びのときは保育部の園児達と入り交じるため，保育者は事故防止・安全管理にかなり神経を遣っており，遊びの充実や発展に対する援助にまで意識が向いていない。

・気になる幼児に対するかかわりにおいて，幼児に響いていない言葉や指示も多い。幼児の課題を明確にし，それぞれの活動やかかわりに意図をもたなければならない。

**＜特別支援に関する課題＞**

・特別な支援の必要な幼児や気になる幼児については，関係機関と連携しながら実態を把握し，対応を協議しているが，道半ばである。

・感情の起伏が激しく，活動を度々停滞させる幼児がおり，対応に苦慮している。

・特別な支援を要する幼児の割合の多さを感じた。保育の際にも，各教室から何人かが飛び出していく。副担任としてついている教師が追いかけるが，飛び出した全員に対応できていない。教師は取組に懸命である。

**【指導助言・改善点】**

・「遊び込む」姿が見られるよう，園の時間の流れ，かかわりたくなる環境や，保育者の応答的なかかわりを見直してほしい。

・５領域の視点，一人一人の発達の課題，学級としての育ち等から幼児の姿を捉え，課題を乗り越えるのに必要な経験ができるよう，環境構成や教師の役割を考えてほしい。

・保育者自身が自信をもって保育にあたるために，「見える」化，「語る」化に励んでほしい。

・安心・安全な環境や教師との信頼関係を基盤にし，一人一人の幼児の課題を捉え，望ましい経験ができるような状況をつくることを考えてほしい。

**＜特別支援に関する助言＞**

・合理的配慮について大切な視点は，「①見通しを持たせる手立て，②言動の可視化，③ １つの指示に１つの行動」等が考えられる。

・特別な支援を要する幼児の対応については，関係機関と連携しながら実態を把握し，対応を協議するのも一つの方策である。

### ④発達や学びの連続性を踏まえた教育

**【特色・評価点】**

**＜保育所との交流＞**

・隣接する保育所と日常的な交流をしており，合同活動など年間指導計画の中に行事等として位置付けられていることを始めとして，保育所と合同で保育・教育課程（接続カリキュラム）を作成し，今年度はその検証に取り組み，カリキュラム・マネジメントの充実を進めている。

・入園前の保育所の先生との情報交換もあり，幼児理解に努めており，一人一人の発達特性をよく捉えている。

**＜小学校との交流＞**

・小学校に隣接し，中学校も近距離にあり，日常的に計画的に交流がされている。特に地震時の津波対策には小学校校舎の屋上が避難先となっていて，子供たちは小学校に始終出入りをしている状況である。

・卒園後は，市内２小学校に分かれて入学するが，園独自の運動会に両校を招待するだけでなく，入学校ごとに園児を分け，それぞれの小学校の運動会にも参加している。

**＜幼児と児童の交流など＞**

・小学校に隣接し，就学前の5 歳児になると小学生と集団登校をするなど，小学校との連携は密なようで小学校へのつながりを意識化させている。

・休み時間に園庭で幼児と一緒に遊ぶ児童の姿が見られ，日常的に交流が行われている。

・降園後には，児童館で小学生と過ごす幼児が大部分で，小学校に親しみや関心を深め，小学校の校内放送が幼稚園にも流れていて，学校生活への関心を高めている。

**＜教師間の交流など＞**

・職員室が幼小同じであることから，子供に関する情報交換を行うことも容易であり，幼小で地域の子供を育てようとする意識がある。

・幼小の担当者が集まって情報交換や研究会も行っており，子供一人一人の確かな理解に基づいた幼小の連携をめざした取組が行われている。

・教職員も週2回小学校と合同の終礼をするなど教師間の連携ができている。

**＜学びの芽生え・教育課程の接続など＞**

・恐竜の化石コーナーには，考案した化石の名前をプレートに書き，見つかった場所を書き添えたり見る人への一言メッセージがあったりするなど，文字を書く関心を受け入れ，新しい環境へと加え，園児の満足感を高めている。

・平成24，25年度と「学びのかけ橋」プロジェクトの指定をうけていたこともあり，接続カリキュラムを作成し，積極的に小学校との連携を進めている。

・人権教育の考え・取組を基盤とし，子供の課題をセンター全体（保育部・幼稚部）で共有している。小学校との連携も模索し，学びをつなぐ交流活動を取り入れ始めている。

**【課題点】**

**＜発達や学びの連続性に関する課題＞**

・年長組の学級のほとんどが複数の保育所からやってきた１年児であり，生活習慣の違いなど繰り返し指導することにより，やっと年長児としての園生活がスムーズに進むようになったようである。

・ボール遊び等では，４・５歳児との経験や体力差等により，遊びが継続せず５歳児にとっては十分な成就感や達成感が得られていないようである。

**＜幼小接続等に関する課題＞**

・幼小が接続カリキュラムの話にまでは進んでいない。

・小学校は隣接しているものの，フェンスで区切られ，運動会も別に行われる等，距離感がある。

・近くの小学校とは距離的に離れているため，実際の交流の機会はなかなかとりにくい。

**【指導助言・改善点】**

・幼児期の学びを小学校へつなぐことや幼児教育と小学校教育の違いを理解し，子供の発達を基盤に据えた幼小接続へと進めてほしい。

・幼児期の「学びの芽生え」を「自覚的な学び」へとつなぐ意識が認定こども園・小学校で共有できるように進めてほしい。

・知的な好奇心が生まれたり，思考したり表現したりすることを楽しんだり，科学的・論理的に考えたり，文化や芸術に触れたりすることを通して「自分ってすごい」「できる・わかるっておもしろい」という学ぶことの楽しさを小学校につないでほしい。

・幼稚園と小学校が隣接している利点を生かし，互いの教育観の理解のための相互参観を取り入れる等，まず教員レベルの連携が求められる。

・集中力は「遊び込む」こと，ひいては「学び込む」ことに関わるので，保育者としては，遊びを持続したり，発展させたりする援助を準備し，集中する体験を重ねさせることが肝要である。

・保育者の心構えとして，自らの声を育てること，話す時間を考慮すること，話題を豊富にするため努力する必要がある。

・現在は，「交流」「イベント」が主になっているが，小学校以降の学習や生活を見通して保育を展開していくことが求められる。

⑤園運営

【特色・評価点】

＜園の独自性・教育目標＞

・園の教育目標や重点事項は教職員に共有され，チーム保育に真摯に取り組んでいる。

・保•幼•小•中•視覚支援学校•家庭•地域との連携を密にし，特色ある保育内容の充実を図るとともに，幼稚園教育への理解を深め，地域に開かれた幼稚園をめざしている。

＜園長のリーダーシップと職員の協力体制＞

・園長は，小学校長との兼任であるが，園運営にも意欲的である。園長は，中学校現場が長く，小・中学校教育の流れの見地から幼児の育ちを見ている。保育の充実を目指し，カリキュラム・マネジメントを意識した取組を進めている。

・園長のリーダーシップのもと，教育目標や教育計画が教職員に共有され，それぞれが目標や課題をもって職務に当たれる体制ができている。

＜職員の研修体制＞

・全員が意欲と責任感をもって保育に取り組めるように，研修にはどの職員も参加できるよう，預かり担当職員にあわせて研修時間を設定するなど教師の学びの機会を保障している。

・教職員間はとてもアットホーム的で協力体制がとられている。短時間ではあるが，出来事などを話し合い，共に問題解決策を考えていくようにしている。

・教育委員会の手厚い人的な配慮があり，降園後，職員は保育記録や保育の準備・研修に取り組めるような日課の中で，精神的なゆとりがモチベーションを高くしている。

＜家庭との連携・子育て支援センター＞

・保護者との連携も密にとり，互いに協力体制がとれている。

・子育て支援として未就学園児の親子を招き，教師が考えた遊びを楽しんだり，子育ての情報交換をしたりしている。

＜地域との連携＞

・小学校や地域との交流も盛んで，様々な行事で地域力が得られ，地域全体で子育てに取り組むネットワークができている。

・地域住民が協力的で，栽培や調理，祭りなどのイベント，絵本読み聞かせ等，様々な支援を得ている。学校・園から依頼しなくても，必要と感じれば，校舎敷地内に足を運び，気になった作業をし，地域で子供を育てる意識が行き渡っている。

【課題点】

＜休園・廃園等に関する課題＞

・休園・廃園が続く地域で，唯一の受け入れ園となっているだけに，降園後は，車で帰ってし

まい，交流できない。

**＜教職員等に関する課題＞**

・正規教員が１名のため，研究会等に参加することが難しく，保育の研修する機会が少ないことも課題の一つである。

・突然の事情で，教師が辞めたことにより，助教諭を担任に配置し，助教諭がいたところを臨時職員で補おうとするが，なかなか人が見つからない。

・園長と副園長が事務を全て引き受けて取り組んでいるが，膨大な量に疲弊している。

**＜保護者対応等に関する課題＞**

・保護者間のトラブルがあり，緊急の保護者会を開くなど対応に苦慮している。

・幼稚園前の送迎に車で来る者が多く，路上駐車で待つ車輌が増え，近隣からお叱りの声が来ることも度々で，かなり悩まされているようである。

**＜認定こども園等に関する課題＞**

・県内で既に移行している認定こども園の声として，①子供の育ちを長いスパンで見る，② 保育・教育を考えるようになる，異年齢間の交流が増え，思いやりがより育つようになった等メリットの一方で，①認定や手続き等に関する情報を細かく把握し，時期を漏らさず対応する煩雑さ，② 人材が不足している，③親の子育てに対する意識が薄まった印象が強くなった等の声がある。

・地域の幼児数の減少と近くに認定こども園が2年前にできたことから園児数が減少している。

・例えば，３歳児の位置付けなど，従来隣接していた幼稚園と保育所を認定こども園とした課題があるようである。

**【指導助言・改善点】**

・経験の少ない保育者が多いので，若い教員が力を発揮しつつ園全体の保育の質が向上していくようなマネジメントが必要である。「子供が育つ・保育者が育つ園」になっていくためにも，園長のリーダーシップに期待したい。

・多様な保護者がいるが，まずはどの保護者にも歩み寄り，信頼関係を築くことが重要である。幼児理解が大切であるように，どの保護者の気持ちや考えも理解し受け止める保護者理解・支援が大切である。

・園児理解の大切さについて話すと共に，園児の発達の過程を理解するためには，研修の時間を確保し，教育・保育要領をもう一度振り返って学ぶことが大切である。

・保護者が安心して来られる幼稚園，保護者同士，子供同士のつながりがもてる幼稚園，子供や保護者支援ができる幼稚園運営のために園・家庭・地域・小学校等，様々な関係諸機関との互恵性のある連携が望ましい。

## 表１　カテゴリ別に見た「訪問記録」の頻出単語（15以上）

| | 合計 | 特色･評価点 | 課題点 | 指導助言・改善点 | ①幼稚園教育要領等に基づいた教育 | ②保育・教育課程の編成・指導計画の作成と保育の展開 | ③保育者とのかかわりと環境の構成 | ④発達や学びの連続性を踏まえた教育 | ⑤園運営 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 幼児 | 198 | 126 | 37 | 35 | 46 | 38 | 65 | 24 | 25 |
| 教師 | 103 | 58 | 27 | 18 | 22 | 20 | 30 | 9 | 22 |
| 遊び | 98 | 65 | 17 | 16 | 39 | 7 | 33 | 16 | 3 |
| 小学校 | 53 | 40 | 6 | 7 | 1 | 2 | 0 | 41 | 9 |
| 保育 | 48 | 27 | 8 | 13 | 4 | 18 | 6 | 6 | 14 |
| 関わり | 47 | 31 | 9 | 7 | 9 | 4 | 25 | 3 | 6 |
| 取り組む | 46 | 39 | 5 | 2 | 13 | 6 | 6 | 7 | 14 |
| できる | 45 | 31 | 6 | 8 | 9 | 6 | 18 | 6 | 6 |
| 活動 | 40 | 22 | 12 | 6 | 14 | 10 | 9 | 5 | 2 |
| もつ | 38 | 23 | 4 | 11 | 13 | 10 | 5 | 6 | 4 |
| 環境 | 38 | 26 | 4 | 8 | 9 | 2 | 24 | 3 | 0 |
| 課題 | 37 | 16 | 11 | 10 | 13 | 4 | 9 | 6 | 5 |
| 必要 | 36 | 4 | 17 | 15 | 8 | 10 | 8 | 7 | 3 |
| 考える | 35 | 16 | 7 | 12 | 11 | 4 | 11 | 4 | 5 |
| 年間計画 | 35 | 25 | 4 | 6 | 0 | 24 | 1 | 8 | 2 |
| 環境構成 | 34 | 20 | 8 | 6 | 4 | 9 | 20 | 0 | 1 |
| 生活 | 34 | 25 | 4 | 5 | 12 | 3 | 6 | 8 | 5 |
| 大切 | 34 | 19 | 3 | 12 | 8 | 5 | 9 | 3 | 9 |
| 育つ | 33 | 18 | 5 | 10 | 6 | 11 | 2 | 3 | 11 |
| 交流 | 33 | 25 | 6 | 2 | 3 | 1 | 0 | 23 | 6 |
| 姿 | 33 | 16 | 8 | 9 | 10 | 10 | 7 | 5 | 1 |
| 地域 | 32 | 25 | 6 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 26 |
| 様々 | 32 | 24 | 4 | 4 | 4 | 2 | 13 | 6 | 7 |
| ねらい | 31 | 12 | 9 | 10 | 3 | 22 | 2 | 4 | 0 |
| 連携 | 31 | 23 | 3 | 5 | 1 | 0 | 2 | 17 | 11 |
| 幼児理解 | 30 | 13 | 9 | 8 | 5 | 5 | 9 | 8 | 3 |
| 園庭 | 29 | 22 | 7 | 0 | 3 | 2 | 18 | 5 | 1 |
| ５歳児 | 28 | 17 | 8 | 3 | 10 | 6 | 2 | 9 | 1 |
| つながる | 28 | 17 | 3 | 8 | 2 | 5 | 4 | 7 | 10 |
| 学び | 28 | 17 | 3 | 8 | 3 | 0 | 10 | 10 | 5 |
| 教育課程 | 26 | 21 | 2 | 3 | 0 | 15 | 0 | 5 | 6 |
| 思い | 26 | 17 | 3 | 6 | 10 | 4 | 5 | 5 | 2 |
| 指導 | 26 | 8 | 6 | 12 | 7 | 10 | 8 | 0 | 1 |
| 自然 | 26 | 23 | 3 | 0 | 4 | 0 | 18 | 2 | 2 |
| 行う | 25 | 19 | 2 | 4 | 5 | 2 | 3 | 11 | 4 |
| 発達 | 25 | 11 | 3 | 11 | 8 | 9 | 2 | 5 | 1 |
| 言葉がけ | 24 | 18 | 3 | 3 | 9 | 2 | 8 | 3 | 2 |
| 作成 | 24 | 17 | 4 | 3 | 0 | 16 | 1 | 4 | 3 |
| 小学生 | 23 | 21 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 23 | 0 |
| 園長 | 22 | 16 | 5 | 1 | 0 | 0 | 1 | 4 | 17 |
| 指導案 | 22 | 5 | 8 | 9 | 0 | 21 | 0 | 1 | 0 |
| 自分 | 22 | 17 | 2 | 3 | 11 | 0 | 6 | 3 | 2 |
| 意識 | 21 | 13 | 4 | 4 | 3 | 1 | 5 | 6 | 6 |
| 援助 | 21 | 11 | 4 | 6 | 2 | 13 | 4 | 2 | 0 |
| 展開 | 21 | 15 | 1 | 5 | 6 | 10 | 4 | 0 | 1 |
| 楽しむ | 19 | 16 | 1 | 2 | 7 | 0 | 7 | 3 | 2 |
| 感じる | 19 | 14 | 4 | 1 | 1 | 1 | 13 | 2 | 2 |
| 教育 | 19 | 10 | 5 | 4 | 0 | 3 | 1 | 5 | 10 |
| 多い | 19 | 7 | 8 | 4 | 2 | 1 | 6 | 5 | 5 |
| 長期 | 19 | 9 | 3 | 7 | 1 | 11 | 1 | 2 | 4 |
| 捉える | 18 | 9 | 3 | 6 | 0 | 10 | 6 | 1 | 1 |
| 工夫 | 17 | 11 | 2 | 4 | 6 | 1 | 9 | 1 | 0 |
| 配慮 | 17 | 11 | 2 | 4 | 3 | 5 | 5 | 1 | 3 |
| 興味関心 | 16 | 15 | 0 | 1 | 9 | 2 | 3 | 2 | 0 |
| 実践 | 16 | 10 | 3 | 3 | 0 | 4 | 1 | 9 | 2 |
| 実態 | 16 | 7 | 3 | 6 | 1 | 13 | 2 | 0 | 0 |
| 豊か | 16 | 11 | 2 | 3 | 3 | 2 | 9 | 0 | 2 |
| 幼小 | 16 | 10 | 4 | 2 | 0 | 2 | 0 | 11 | 3 |
| 流れる | 16 | 8 | 3 | 5 | 9 | 1 | 3 | 1 | 2 |
| ４歳児 | 15 | 8 | 5 | 2 | 8 | 3 | 2 | 1 | 1 |
| 記録 | 15 | 7 | 3 | 5 | 0 | 12 | 0 | 0 | 3 |
| 共有 | 15 | 11 | 1 | 3 | 4 | 5 | 0 | 3 | 3 |
| 教師間連携 | 15 | 14 | 1 | 0 | 0 | 4 | 1 | 2 | 8 |
| 行事 | 15 | 12 | 2 | 1 | 0 | 2 | 0 | 10 | 3 |
| 支援 | 15 | 6 | 4 | 5 | 0 | 1 | 8 | 0 | 6 |
| 時間 | 15 | 5 | 5 | 5 | 3 | 2 | 3 | 4 | 3 |
| 進む | 15 | 11 | 4 | 0 | 5 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 対応 | 15 | 5 | 8 | 2 | 1 | 0 | 7 | 0 | 7 |
| 保護者 | 15 | 6 | 7 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 14 |
| 幼稚園 | 15 | 8 | 2 | 5 | 0 | 1 | 2 | 6 | 6 |

**表２　訪問記録の特色・評価点と課題点のまとめ**

| | 【特色・評価点】 | 【課題点】 |
|---|---|---|
| **①幼稚園教育要領等に基づいた教育** | ・ふさわしい生活の展開<br>・異年齢交流の意義図性に<br>・教師の適切な援助<br>・教師の意図性に関する課題<br>・環境構成に関する課題 | ・教師主導の学級活動など，教師の意関する課題<br>・遊びが充実するような環境構成に関する課題 |
| **②保育・教育課程の編成・指導計画の作成と保育の展開** | ・教育課程<br>・カリキュラムマネジメント（ポートフォリオ・PDCAサイクル等含む）<br>・幼児理解に基づく指導計画<br>・長期（年･期･月など）の指導計画<br>・短期（週・日など）の指導計画 | ・幼児の姿や教師の願いの視点や捉えが曖昧など<br>・指導案の具体性に欠けるなどの課題<br>・指導案作成上に関する課題・短期<br>・長期計画の関連性が不十分などという課題 |
| **③保育者とのかかわりと環境の構成** | ・物的環境（自然･栽培物･飼育物など）<br>・物的環境（屋外の空間・遊具など）<br>・物的環境：室内環境など<br>・人的環境：教師の援助など | ・環境構成の工夫や精選などの課題<br>・遊びの援助や言葉がけなど保育者の援助等に関する課題<br>・特別な支援の必要な幼児や気になる幼児への対応に関する課題 |
| **④発達や学びの連続性を踏まえた教育** | ・保育所との交流<br>・小学校との交流<br>・幼児と児童の交流<br>・教師間の交流<br>・学びの芽生え・教育課程の接続（学びの懸け橋プロジェクト） | ・保育所と幼稚園，４歳と５歳児など，発達や学びの連続性に関する課題<br>・幼稚園と小学校の接続カリキュラムなど，幼小接続にに関する課題 |
| **⑤園運営** | ・園の独自性・教育目標<br>・園長（兼任園長）のリーダーシップと職員の協力体制<br>・職員の研修体制<br>・家庭との連携・子育て支援センター・地域との連携 | ・休園・廃園・統合等に係る課題・教員数，臨時職員不足など，教職員等に関する課題<br>・保護者対応や保護者間のトラブル等に関する課題<br>・認定こども園等に関する課題 |

## 質問事項（●）・協議事項（○）

**＜少人数保育について＞**

- ● 少人数保育の在り方
- ● 少人数のメリット・デメリット
- ● 少人数園における集団遊びの進め方や必要な配慮
- ● 園児が一人であるが故のコミュニケーション力の育成
- ● 小規模園においては，災害が発生した際の小学校との連携の在り方について他園ではどのようにしているか
- ● 少人数クラスが抱えるコミュニケーション能力の育成

**＜指導計画について＞**

- ● 指導案の表現について
- ● 指導計画の改善につながる保育記録のとりかた
- ● 指導案を作成するにあたっての留意点について
- ● 混合学級における指導計画の立て方や評価の仕方
- ● 指導案や教育• 保育課程，指導計画等の作成の留意点
- ○ 新しい教育課程との関連
- ○ 人権教育の点からみた保育
- ○ 指導案の書き方，幼児理解の仕方，教師の発問，環境構成の視点等

**＜教師の指導・援助について＞**

- ● 基本的な生活習慣の育成
- ● 幼児理解に基づく指導の展開
- ● 設定保育の出どころ・引きどころ
- ● 幼児の主体性と教師の願いとのバランス
- ● 一人一人の幼児の発達に応じたかかわり
- ● 幼児が遊び終えたときの片付けの捉え方
- ● 「話を聞くこと」が持続しない幼児への対応
- ● 幼児理解の深さと応答性の高い教師のかかわり
- ● 言葉で伝え合う力を育むための教師のかかわり方
- ● 隣の声が聞こえてしまうなど，オープンスペースの課題点
- ● 人の話を最後まで聞くことが苦手で口々に話そうとする
- ○ 発達を踏まえた製作
- ○ 発達を踏まえた指導

○　語彙を豊かにするために

○　やりとりの楽しさを味わう

○　活動に込められた教師の意図

○　コミュニケーション能力の育成

○　子供たちの発想を生かした製作

○　幼児の姿をどう捉え，保育を展開していくか

○　幼児の思いを受け止めるための教師側の目線，視点

**＜遊び込む環境について＞**

○　遊び込むことのできる環境

○　遊びの発展と環境構成の在り方

○　遊びの発展，遊び込む環境構成

○　幼児自らか遊びを創り出していけるような環境構成をしていくためには

○　保育時間の長さに伴う,「遊び込め」たり，持続できたりする遊びへの環境構成や働きかけ方

○　満足感を育てる

○「遊び込む」姿

○　遊びの持続や発展

○　遊びを通した成長

○　遊びの広がり・深まり

○　遊びを充実させるために

○　遊びの発展，遊び込む環境構成

○　創意工夫を生かした遊びの環境設定

**＜食育指導について＞**

○　食育について

○　給食指導について

○　給食指導：食べることに意欲的でない幼児に対する援助の仕方

**＜特別支援について＞**

○　気になる幼児の指導や保護者への伝え方

○　特別支援の必要な子供の支援の在り方について

○　特別な支援を必要とする幼児の指導上の配慮や工夫点

○　支援を要する幼児の対応の仕方や関係諸機関との連携

○　特別な支援を要する幼児の対応に向けて（ 個人差への応じ方）

○　様々な家庭の事情により，支援の必要な幼児や保護者への支援の仕方

○　特別に支援を要する幼児への対応について：多動で感情の抑制がきかない女児

○　家庭環境の違いから，同じ事をいっても話し方がそれぞれ違う。相手をびっくりさせたり傷つけたりするような乱暴な口調で話す幼児がおり，家庭へどのように伝えたらよいか悩んでいる。

○　遊具や用具の扱い方が乱暴で，気付かず踏んでしまったりして壊してしまったりする幼児がいる。その都度，園で指導しているが，家庭への啓発の仕方を教えてほしい。

○　特別に支援を要する幼児の援助

○　保護者の協力を得られない幼児の保育

○　特別支援を必要とする数名の幼児への対応

○　難聴の幼児に対しての対応の仕方や保護者に対する支援をどのようにするか，また，保護者や小学校，関係機関との連携をどのように図っていくか

**＜同僚性・研修の在り方について＞**

●　保育記録の在り方

●　専門性・同僚性の難しさ

●　記録の工夫や園内研修のポイント

●　研修時間の確保が難しいので，効率的な研修の在り方

●　幼児理解を深めるための記録の工夫や園内研修のポイント

●　保育内容や職員研修について協議

**＜認定こども園について＞**

●　認定こども園に移行に伴う運営上の課題

●　幼保連携型認定こども園であるため，短時部と長時部が一つのクラスで生活している。その場合の，８月など長期休みの計画の立て方や，短時部への配慮内容など。

**＜幼保小接続について＞**

●　小学校生活に向けて積み重ねたいもの

●　小学校との滑らかな接続に必要な資質・能力について

●　幼小の連携について（ 距離があり，計画的になかなか交流できない。）

●　小学校への接続期における教育課程のわかりやすい様式と，加えたらよいと思われる小学校からの視点について

○　ホワイトボードの使用について

○　保育と幼児教育の連携や接続について